

基本計画（案）

令和3年2月 奥出雲町

目次

1. 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と施策の関係	1
2. 施策分野別の記載内容の見方	2

基本理念Ⅰ 「産業」と「自然」がつながるまちづくり

基本目標1 自然と共生した資源循環型産業をつくる

①農業の振興	3
②畜産業の振興	4
③林業の振興	5
④環境・エネルギー・景観	6

基本目標2 人を惹きつける産業をつくる

①商業・工業の振興	7
②観光の振興	8
③奥出雲ブランド構築	9

基本目標3 活力と地域を支える担い手をつくる

①経営支援・担い手育成	10
②起業支援と新たな働き方の推進	11

基本理念Ⅱ 「人」と「心」がつながるまちづくり

基本目標4 人々がつながるコミュニティをつくる

①定住の促進	12
②住民主体のまちづくり	13
③多様性社会の推進	14

基本目標5 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

①結婚・子育て支援の充実	15
②学校教育の充実	16
③社会教育の充実	17
④地域文化・スポーツ振興	18
⑤地域間交流・国際交流の推進	19

基本理念Ⅲ 「安心」と「暮らし」がつながるまちづくり

基本目標6 健やかで安心安全な暮らしをつくる

①健康づくりと介護予防の一体的推進	20
②地域福祉の充実	21
③地域医療・介護体制の維持・充実	22
④消防・防災対策の推進	23
⑤安心・安全に関する意識啓発	24

基本目標7 産業と暮らしを支えるインフラをつくる

①公共施設の活用・適正管理	25
②生活基盤・交通基盤の整備	26
③住宅施策	27
④地域情報化の推進	28

総合計画の実現に向けて

基本目標8 持続可能なまちをつくる

①効率的・効果的な行政サービスの推進	29
②官民協働による戦略的シティプロモーション	30

1. 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と施策の関係

奥出雲町では、平成 27（2015）年度に策定した総合戦略に基づき、人口減少の克服と地方創生に向けた施策を推進してきました。第 2 期総合戦略は令和 3（2021）年度からを計画期間としており、総合計画と目指す方向性が同じであることから、第 2 次総合計画において整合性を図り、効果的に取り組めるように総合戦略における施策を包括的に推進します。

表 1) 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」基本目標と第 2 次総合計画の施策の関係図

理念		基本目標		施策分野		第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組目標				
						稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする	都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる	
I	産業と自然がつながるまちづくり	1	自然と共生した資源循環型産業をつくる	①農業の振興	●					
				②畜産の振興	●					
				③林業の振興	●					
				④環境・エネルギー・景観					●	
		2	人を惹きつける産業をつくる	①商業・工業の振興	●			●		
				②観光の振興	●					
				③奥出雲ブランド構築	●					
		3	活力と地域を支える担い手をつくる	①経営支援・担い手育成	●					
				②起業支援と新たな働き方の推進	●			●		
II	人と心がつながるまちづくり	4	人々がつながるコミュニティをつくる	①定住の促進			●		●	
				②住民主体のまちづくり			●		●	
				③多様性社会の推進					●	
		5	豊かな心と文化を育てる環境をつくる	①結婚・子育て支援の充実				●		
				②学校教育の充実			●		●	
				③社会教育の充実			●		●	
				④地域文化・スポーツ振興			●		●	
				⑤地域間交流・国際交流の推進			●			
				⑥地域交流の推進						●
III	安心と暮らしがつながるまちづくり	6	健やかで安心安全な暮らしをつくる	①健康づくりと介護予防の一体的推進						
				②地域福祉の充実					●	
				③地域医療・介護体制の維持・充実				●	●	
				④消防・防災対策の推進						
				⑤安心・安全に関する意識啓発						
		7	産業と暮らしを支えるインフラをつくる	①公共施設の活用・適正管理						
				②生活基盤・交通基盤の整備						
				③住宅施策						●
				④地域情報化の推進						●
8	持続可能なまちをつくる	①効率的・効果的な行政サービスの推進						●		
		②官民協働による戦略的シティプロモーション				●		●		

第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の横断的な基本目標			第 2 次奥出雲町総合計画における施策
横断的な目標 1	多様な人材の活躍を推進する	多様なひとびとの活躍による地方創生の推進 誰もが活躍する地域社会の推進	民間活力の導入 住民と協働のまちづくり
横断的な目標 2	新しい時代の流れを力にする	地域における Society5.0 の推進 地方創生 SDGs の実現など持続可能なまちづくり	地域情報化の推進 SDGs と連動した施策展開

2. 施策分野別の記載内容の見方

基本目標名

7つの基本目標における該当する基本目標を示しています。

総合戦略との関連 / SDGs との関連

施策分野と合致する総合戦略の取組目標とSDGsのゴールを示しています。

施策分野名

該当する施策分野を示しています。

基本目標 1 自然と共生した資源循環型産業をつくる

① 農業の振興

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
<input checked="" type="checkbox"/> 地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

施策分野関連する社会全般の情勢や国の政策の動向などを示しています。

奥出雲町現状（現状と課題）

施策分野における本町の現状と課題を示しています。

10年後のめざす姿

施策の推進を通じて実現を目指す10年後の地域社会のイメージです。

KGI・まちづくりの目標

施策を推進することによって得られる効果を示す指標です。

関連計画

施策分野に関連する個別計画を示しています。

取組

(1) 農地の維持・管理・保全

中山間地域等直接支払制度（5期）では、認定農業者の育成を図り、農用地の集積、農業経営の体制強化を進めるとともに、未協定集落の集落協定の締結を進め、農地の維持・管理を図ります。また、国営開発農地においても、個別協定の締結や後継者等への経営継承を図りながら、今後も認定農業者など担い手への農地の集積を促します。その他、有害鳥獣対策については、近隣市町や県、関係団体と連携し被害防止を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値	目標値	
	2020年度	2025年度	2030年度
中山間地域等直接支払事業 協定農地面積	1,982ha	1,960ha	1,940ha

(2) 奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売

地域に根差した資源循環型農業を推進し、「仁多米」はもとより町内で生産される農産物のブランド力強化を図り、地元産直市などを活用した地産地消の推進、「奥出雲ブランド」や「農業遺産認定」を活かした有利販売に努め、生産者の所得向上を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値	目標値	
	2020年度	2025年度	2030年度
産直市販売額	16,540万円	16,800万円	17,000万円

(3) 農業の生産性向上のための新技術の導入

これまでの農業は、生産者の経験と勘による栽培を行ってききましたが、今後は栽培データの集積と分析を進めマニュアル化することで、栽培技術の向上と農作業の省力化、「誰でも、どこでも」良質な農産物の生産と、担い手確保に繋がるスムーズな事業承継環境を整備します。また、生産性向上や省力化に向けたスマート農業技術の導入や活用について支援を行い、持続可能な農業を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値	目標値	
	2020年度	2025年度	2030年度
先端技術導入経営体数	6経営体	10経営体	15経営体

(4) 棚田を活用した農村振興

棚田地域振興法の施行により、棚田を核とした、棚田オーナー制、郷土料理の提供、棚田ブランド米の販売、古民家を改修しての農泊や農業体験、棚田展望台、棚田のライトアップ、棚田カフェなど新しい視点での農村振興を推進します。併せて、中山間地域等直接支払事業の棚田加算を活用し、これらの取組を町全域の集落に広げます。このため、行政の役割、集落、個人の取組を明確にし、農業体験や移住体験、短期宿泊体験などの連携を促し、交流人口、関係人口、移住定住のカスケードを作り上げていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値	目標値	
	2020年度	2025年度	2030年度
中山間地域等直接支払事業 棚田加算取組集落協定数	18集落	28集落	38集落

(5) 安全・安心で売れる農産物の生産

農産物の安全・安心を確保するため、「GAP：農業生産工程管理」の取組を推進します。また、「仁多米」は特別栽培米（エコ米）及び減農薬、減化学肥料栽培を推進し、消費者が求める安全・安心で高品質な農産物の生産に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値	目標値	
	2020年度	2025年度	2030年度
環境保全型農業取組者数	59件	65件	70件

みんなが協力できること

町民・地域

- 地産地消で地元の食材に興味を持つ
- 町民一人ひとりが自らの地域を守る

企業・団体

- 生産性と収益性の高い農産物を普及させる
- 先進的な農業技術を普及させる

みんなが協力できること

各施策分野において、町民・地域、企業・団体が協力してできることを示しています。

基本目標1 自然と共生した資源循環型産業をつくる

①農業の振興

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

施策を取り巻く社会情勢

農村地域では、都市部以上に人口減少、高齢化が進み、担い手・後継者不足により農地の荒廃や生産基盤の脆弱化が進行しています。

また、国際貿易交渉の進展により、安価な農畜産物や加工品が輸入される一方、国内需要の縮小と消費者ニーズの多様化による産地間競争が激化し、農業を取り巻く情勢は、厳しい状況にあります。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町は昼夜の寒暖差が大きく冷涼な気候を活かした農業が特徴です。水田では、ブランド米である「仁多米」が生産され、転作地や国営開発農地では、キャベツやほうれんそうなどの特産野菜のほか、そば、エゴマの振興を図っています。
- ◆農家は小規模経営が中心で、専業農家は少なく、農業従事者の高齢化と担い手不足を背景に、耕作放棄地や遊休農地が増加傾向にあります。また、基盤整備に係る負担金や流通経費の高騰、機械への過剰投資など、生産コストの低減が課題となっています。
- ◆今後は、農地の集積や、スマート農業の活用、集落営農等の法人化、日本型直接支払制度等により、農地を守り、活かす取組を推進する必要があります。

10年後のめざす姿

町内産農産物のさらなるブランド化を推進するとともに、「儲かる農業」への転換を図り、新規就農者や規模拡大を目指す農業者を支援することにより、安定的に安全・安心な農産物を生産するまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認定農業者数	70件	75件	80件
主要農産品販売額 (JA取扱分)	97,113万円	100,000万円	102,000万円

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 農地の維持・管理・保全

中山間地域等直接支払制度（5期）では、認定農業者の育成を図り、農用地の集積、農業経営の体制強化を進めるとともに、未協定集落の集落協定の締結を進め、農地の維持・管理を図ります。また、国営開発農地においても、個別協定の締結や後継者等への経営継承を図りながら、今後も認定農業者など担い手への農地の集積を促します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
中山間地域等直接支払事業 協定農用地面積	1,982ha	1,960ha	1,940ha

(2) 奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売

地域に根差した資源循環型農業を推進し、「仁多米」はもとより町内で生産される農産物のブランド力強化を図り、地元産直市などを活用した地産地消の推進、「奥出雲ブランド」や「農業遺産認定」を活かした有利販売に努め、生産者の所得向上を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産直市販売額	16,540万円	16,800万円	17,000万円

(3) 農業の生産性向上のための新技術の導入

これまでの農業は、生産者の経験と勘による栽培を行ってききましたが、今後は栽培データの集積と分析を進めマニュアル化することで、栽培技術の向上と農作業の省力化、「誰でも、どこでも」良質な農産物の生産と、担い手確保に繋がるスムーズな事業承継環境を整備します。また、生産性向上や省力化に向けたスマート農業技術の導入や活用について支援を行い、持続可能な農業を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
先端技術導入経営体数	6経営体	10経営体	15経営体

(4) 棚田を活用した農村振興

棚田地域振興法の施行により、棚田を核とした、棚田オーナー制、郷土料理の提供、棚田ブランド米の販売、古民家を改修しての農泊や農業体験、棚田展望台、棚田のライトアップ、棚田カフェなど新しい視点での農村振興を推進します。併せて、中山間地域等直接支払事業の棚田加算を活用し、これらの取組を町全域の集落に広げます。このため、行政の役割、集落、個人の取組を明確にし、農業体験や移住体験、短期宿泊体験などとの連携を促し、交流人口、関係人口、移住定住のカスケードを作り上げていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
中山間地域等直接支払事業 棚田加算取組集落協定数	18集落	28集落	38集落

(5) 安全・安心で売れる農産物の生産

農産物の安全・安心を確保するため、「GAP：農業生産工程管理」の取組を推進します。

また、「仁多米」は特別栽培米（エコ米）及び減農薬、減化学肥料栽培を推進し、消費者が求める安全・安心で高品質な農産物の生産に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
環境保全型農業取組者数	59件	65件	70件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 地産地消で地元の食材に興味を持つ
 - 町民一人ひとりが自らの地域を守る
- 企業・団体
 - 生産性と収益性の高い農産物を普及させる
 - 先進的な農業技術を普及させる

基本目標1 自然と共生した資源循環型産業をつくる

②畜産業の振興

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野	<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

農家の高齢化や担い手・後継者不足により飼養戸数の減少が進行し、加えて飼料価格の上昇など経営環境の変化によって、生産基盤の弱体化が懸念されています。一方で、消費者ニーズの多様化や国際貿易交渉の進展などにより外国産畜産物の増加や消費動向の変化など、これからの肉用牛生産及び酪農の発展に向けた転機を迎えている状況です。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町の畜産・酪農は重要な産業の一つであり、特に肉用牛は増体・肉質とも優れ、かつては「仁多牛」、現在は「奥出雲和牛」として全国的にも高い評価を得ています。令和2年10月には、地域団体商標として「奥出雲和牛」が登録され、さらなるブランド牛の生産体制を確立するためJAと協力しながら維持拡大を図っています。
- ◆しかし、畜産経営の状況は、農家の高齢化・兼業化、牛肉の輸入自由化などにより、飼養戸数・頭数ともに減少傾向にあるため、今後も引き続き畜産農家の経営改善や生産性の向上と基盤確立に向けた施策の推進、担い手の確保、後継者育成を図る必要があります。

10年後のめざす姿

町内外からの新たな担い手の確保、後継者育成を進め、和牛繁殖農家数の減少に歯止めをかけるとともに、コントラクターの利用などを活用して労働力不足の解消を図り、生産基盤の強化に努め、おいしい「奥出雲和牛」を生み出すまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
繁殖和牛飼養戸数	135戸	133戸	130戸

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町畜産クラスター計画	平成30年度～令和5年度

取組

(1) 奥出雲和牛の生産基盤の維持拡大

(一社)町農業公社の繁殖育成牧場を活用し、優良雌子牛及び受精卵の畜産農家への供給や県外の優良系統牛の導入、優良雌子牛の地元保留を進め、優良牛の確保に努めるとともに、集落営農組織等へ畜産を取り入れ、新たな飼養体制を整えます。

また、農家の高齢化や担い手不足が深刻化する中、コントラクター利用促進などにより、畜産農家の労働力軽減を図り、奥出雲和牛の産地を維持、飼養頭数の維持拡大に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
繁殖和牛飼養頭数	1,082頭	1,120頭	1,150頭
コントラクター利用件数	20件	22件	25件

(2) 耕畜連携による資源循環型農業の推進

堆肥は、おいしい「仁多米」の生産や安全・安心な農産物の生産、農地の地力維持、向上に欠かすことのできない地域資源です。これからも、堆肥の需要に応えるため、仁多堆肥センターのストックヤードの充実を図り、ペレット化による供給体制を整えます。

また、遊休農地等へ放牧を推進することで、畜産農家の省力化と農地資源の保全を図り、担い手不足による耕作放棄地の解消に努めます。



堆肥散布の様子

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水田への堆肥供給面積	604.2 ha	650.0 ha	670.0 ha

※コントラクター：飼料作物の播種や収穫作業、堆肥の調製・運搬・散布作業などを請け負う組織。近年、畜産経営においては、飼養規模の拡大により、飼養管理に専念するため、自給飼料生産を外部（コントラクター）に委託する動きが加速。

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - おいしい「奥出雲和牛」を積極的に購入する
 - 新規就農者や若い生産者を応援する
- 企業・団体
 - 「奥出雲和牛」を積極的にPRする
 - 先進的な畜産技術を普及する

基本目標1 自然と共生した資源循環型産業をつくる

③林業の振興

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	総合戦略として対応する分野										
							7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

主に戦後の復興期に植林された本町の人工林の多くは主伐期を迎えています。近年の木材価格の低迷や林業従事者の減少等のため木材の出荷は低迷しています。

森林の経済的価値が下落したことで、山主の山林経営に対する関心も低下しており、不在村地主の増加もあって、管理の行き届かない森林が増加しつつあります。

民有林の管理手法として、平成31年4月から適正な管理が行われていない森林について町が仲介役となり意欲と能力のある林業事業体に経営管理を再委託する「新たな森林管理システム」による手法が加わりました。同時に、全国の自治体に対して「森林環境譲与税」の交付が始まっており、管理の行き届かない森林の保全が進むものと期待されています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆令和元年度の町内の林産出荷額は97百万であり、10年前の153百万、5年前の109百万に比べ、年々減少傾向にあります。
- ◆森林を管理する担い手不足が深刻で、林業従事者は10年前の63人から34人に、この10年間で半減しました。
- ◆林業の生産性を高めるためには、今後路網整備と施業地の団地化・集約化を行い、スマート林業を推進することが必要不可欠です。
- ◆豊富な地域資源である林産材を活用して菌床椎茸栽培を行っており、島根県内で最大の生産地となっています。また、舞茸やエリンギ等の生産も盛んで、近年は売上を伸ばしています。
- ◆奥出雲独自の「雲太1号」を開発し、市場での有利販売を目指していますが、栽培管理が難しく、生産が思うように伸びていません。

10年後のめざす姿

スマート林業の推進と森林環境譲与税の活用による林業の生産性が高く健全な奥出雲の森林があり、椎茸などの特用林産の栽培が盛んなまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
木材出荷量	6,500 m ³	7,000 m ³	7,500 m ³

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町森林整備計画	平成30年度～令和9年度

取組

(1) 山林の保全と基盤整備

航空レーザ計測による森林資源解析を実施し、正確な森林資源量等を把握します。森林組合との連携のもと、スマート林業の素地を築き、将来的には川上と川下をつなぐ林業サプライチェーンの構築を目指します。

また、微細地形データを基に、県営林業専用道や林内作業道等の路網整備を進めるとともに地籍調査事業による不在村山主の状況や林地境界の把握に努め、将来的に施業集約化・団地化を促進することで、林業低コスト化と山主還元率の向上を図るとともに、木材の安定供給により、優位な価格での販売促進を行い、木材価格の低迷から脱却を図るため、近隣市町との広域化の方向を模索します。

そのほか、高性能林業機械の導入補助や農林中金「森力事業」への支援等を行い、施業の効率化推進と共にスマート林業の受け手となる町内林業経営体（森林組合）育成を図るとともに、島根県が進める循環型林業（伐って・使って・植えて・育てる）を構築するため再造林を推奨し、森林災害が発生しにくい健全な森林づくりを進めます。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
路網敷設延長	1,466m	4,466m	9,466m
施業集約化団地数	0 団地	1 団地	2 団地

(2) 特用林産の推進

本町が進める「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」を構成する特産品でもあるシイタケなど特用林産の振興を図ります。

また、産地創生事業（県単）等を利用し、椎茸等栽培施設強化による収量拡大を図り、榎木生産原料としてのクヌギ造林の利用を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
榎木生産原料の町内比率	38%	43%	45%

(3) 山林の多面的利用

ミニキャンプやグランピング人気を捉え、既存森林リクリエーション施設の再整備や近隣施設と連携した取組を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
玉峰山森林公園施設利用件数	230 件	270 件	300 件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 森林所有者も含め、森林を適正に管理する
- 企業・団体
 - 特用林産を推進する
 - 小中学生対象の森林教室などによる後継者育成のためのPR活動をする

基本目標1 自然と共生した資源循環型産業をつくる

④環境・エネルギー・景観

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野															
		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる															
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

自然環境の悪化に伴い、生物の多様性が、これまでにない早さで刻一刻と失われつつあります。便利なプラスチックは世界中で大量に生産されてきましたが、使い捨てにされ、放置されたプラスチックゴミは深刻な社会問題となってきています。東日本大震災以降、国を挙げて再生可能エネルギーの利活用拡大が図られてきましたが、電力の安定供給の観点から、再稼働する原発等もあり、再生可能エネルギーに関する動向はやや不透明となってきています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆人口減少、生活様式の変化に伴い、ごみの排出量は減少傾向にあるものの、化石燃料から製造されるプラスチック製品（PE、PPなど）は増加傾向にあり、ごみ処理費用が増加しています。
- ◆太陽光発電システムや木質系バイオマス暖房機器等に対する補助、林地残材を木質系バイオマス燃料（木質チップ）として、町内2ヶ所の温浴施設に供給しています。
- ◆町営の小水力発電所を3カ所所有し、各発電所は電力固定価格買取制度（FIT制度）の認定を受け、地域新電力である奥出雲電力㈱を設立しています。
- ◆豊富に存在する森林資源の活用を目指して、平成26年に「奥出雲町バイオマス産業都市構想」を策定し、認定を受けていますが、たたら製鉄によってもたらされた景観である、国の重要文化的景観や日本遺産登録を住民自身がそのことに誇りを持ち、この宝を未来につないでいく必要があります。
- ◆地区によっては、松くいやナラ枯れによる里山の景観破壊が見られます。

10年後のめざす姿

脱炭素社会づくりに向けた国民運動「COOL CHOICE」を推進するとともに、エネルギー地産地消の取組が推進されたまち
 住民がたたら製鉄に育まれた奥出雲町の景観や生活様式等について理解を更に高め、次世代に伝え、つなげていく姿が見られるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
電力の地産地消率	62%	63%	65%

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町バイオマス産業都市構想	平成26年1月7日～令和6年1月6日

取組

(1) 森林環境の保全・創造

間伐や主伐後の定植への指導を強化し、森林の公益的機能の維持に努めます。また、適正な管理が行われていない森林について町が仲介役となり意欲と能力のある林業事業体に経営管理を再委託する「新たな森林管理システム」により、管理の行き届かない森林の保全に務めるとともに、松くいやナラ枯れによる里山の景観破壊を防ぎます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
松くい・ナラ枯れ被害本数	1,276本	1,148本	1,033本

(2) 自然と共生する環境の形成

住民一人ひとりが日常生活を振り返り、脱炭素社会づくりに貢献するため、地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を推進するとともに普及啓発を図ります。また、公共施設における、省エネルギー製品の積極的な導入を進め、新エネルギー設備の促進を図るとともに、太陽光発電及び木質チップボイラー等の再生可能エネルギー導入を促進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「COOL CHOICE」の普及啓発活動	12回	12回	14回

(3) 循環型社会の構築

住民、事業所、団体、行政が協働し、3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）活動を推進するとともに「どのようなものを何にリサイクルするために集めるか」を意識し、ごみの分別回収に引き続き取り組みます。また、3Rの推進を図るため、キーマンとなる人材の発掘を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町内各種団体によるごみ処理施設の見学、出前講座の開催	0回	2回	4回

(4) 新エネルギーの導入支援

新エネルギー設備導入促進事業を活用し、太陽光発電並びに蓄電池の設置及び木質エネルギーの普及促進による環境負荷の軽減及び災害に強い家づくりを推進します。また、各小水力発電所の機能が将来にわたり十分に発揮できるよう、必要に応じて長寿命化対策等を講じるとともに電気の地産地消のため、奥出雲電力㈱による事業所への電力供給の基盤整備を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
新エネルギー設備導入促進事業	146件	161件	177件
阿井発電所の年間発電量	720,737 kWh	755,000 kWh	767,000 kWh

(5) 景観形成の推進

住民が折に触れ町内景観の素晴らしさに気づけるよう、「奥出雲町遺産認定制度」の継続実施とアーカイブを推進し、定期的に情報発信を行います。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「奥出雲の遺産」認定件数（再掲）	77件	90件	100件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」に取り組む
 - 電気の地産地消に取り組む
 - 奥出雲町遺産に関心を持つ
- 企業・団体
 - 「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を推進する
 - 電気の地産地消に取り組む
 - 認定された景観等の写真を使って、情報発信する

基本目標2 人を惹きつける産業をつくる

①商業・工業の振興

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野						<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
関連するSDGsターゲット																		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

施策を取り巻く社会情勢

平成30年度年次経済財政報告書によれば、「我が国経済は、平成24年11月を底に緩やかな景気回復が続いている。」とされていますが、地方都市の商工業においては、依然として厳しい状況が続いています。また、近年においてはICT分野における技術革新の進展が目覚ましく、産業構造や競争環境が大きく変化しており、商工業の分野においても、こうした社会情勢の変化に対応しながら、生産性の効率を高め、事業を継続していく必要があります。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町の商業においては、人口減少による需要の減少、近隣地域の大型店舗への購買客流出などにより販売額の減少が続いており、地域の商業を支える小規模事業者は減少しています。また、75歳以上の経営者が全体の18%と県平均の7%よりも高く、事業承継への支援が必要です。
- ◆製造業においては、金属製品製造業、食料品製造業、繊維工業などが主体であり、製造品出荷額は平成21年から大きく増加し、平成25年度以降300億円弱で推移していますが、その経営環境は人口減少による顧客ニーズの多様化やIT化による多様化への対応などにより、一層厳しさを増しています。また、企業が安定的・発展的に事業展開するうえで必要となる従業員の確保と育成は、少子高齢化などにより難しい状況が続いています。
- ◆このように本町の商工業を担う中小企業・小規模事業者は非常に厳しい状況におかれています。地域の経済と雇用を支える重要な存在であるため、本町の「奥出雲町中小企業・小規模企業振興基本条例」に則り、商工会をはじめとした関係機関と連携し、多様な取組を支援する必要があります。

10年後のめざす姿

社会の変化に対応しながら、町内の中小企業・小規模事業者が事業活動を活発に展開し、町内全体の経済が好循環しているまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
製造品出荷額	293億円	300億円	310億円
粗付加価値額	116億円	118億円	120億円

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 商工事業者への経営支援

商工団体や金融機関と連携し、商工事業者への経営支援や金融支援などの情報提供に努め、事業者の安定的・持続的な経営基盤の確保を支援します。また、商工会が策定する経営発達支援計画に基づく伴走型支援が円滑に推進されるよう支援し、商工事業者の売上拡大、経営改善をはじめ、新規出店や移動販売、オンライン販売など社会情勢に対応した取組を支援します。

事業承継においては支援すべき案件を整理し、第三者承継なども含めた事業承継が円滑に進むよう関連機関と連携して支援します。

企業の安定的・継続的な発展に必要な人材の確保や従業員のスキル向上などへの取組に対し、関係機関と連携して支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
支援補助金（地域商業等支援事業）の採択件数（累計）	1件	11件	22件
事業承継の支援件数(商工会支援による事業承継事業者数)（累計）	4件	24件	44件

(2) 地域内消費の喚起

地域商業の活性化を図るため、商工会を始めとした関連機関と連携し、地域の賑わい作りのための新たな事業の創出や商業環境の整備を支援します。また、地域電子通貨の導入などによる地域内消費を生み出す取組を積極的に支援し、持続可能な地域経済の確立を目指します。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産直市販売額	16,540万円	16,800万円	17,000万円

(3) 地域資源を活用した産業の創出

町内に豊富に賦存する農林産物をはじめとする地域資源を活用した新品・サービスの開発、新分野への進出など、農工商連携や6次産業化などによる新たな産業の創出を支援します。また、地域資源の活用以外においても、地域課題の解決に繋がる新たなビジネスの創出やICT技術を活かした新たな商品・サービスの開発を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産業創出関係補助事業の採択件数（累計）	2件	12件	22件



みんなが協力できること

- 町民・地域
 - 地元で買えるものは地元で買う
- 企業・団体
 - 安定的・持続的な経営基盤の確保に努める
 - 社会情勢に適応しながら、新たな事業展開に努める

基本目標2 人を惹きつける産業をつくる

②観光の振興

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 7 <input checked="" type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 16 <input checked="" type="checkbox"/> 17

施策を取り巻く社会情勢

観光を取り巻く環境は本格的な人口減少社会の到来、旅行形態の多様化、インバウンド需要の増加などにより著しく変化し、観光立国推進基本法の施行、観光立国推進基本計画の策定、観光庁の設置など国を挙げての体制整備が行われています。また、全国各所でDMOによる地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する観光地域づくりが始まっています。地方都市においても、観光振興による交流人口増加を通じた高い経済波及効果によって、人口減少で生じる影響の緩和が期待できます。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町には、たたら製鉄に関する資源や、温泉、自然景勝地等の観光資源が存在し、年間80万人を超える観光入込客があります。
- ◆中国横断自動車道尾道松江線の全線開通により山陰地方へのアクセスが向上し、山陽方面から多くの集客が見込めることから、地域資源を活かした観光商品の開発や情報発信によって認知度を向上させることが必要です。
- ◆平成30年度に観光協会を法人化し、本町の地域資源を活かした新たな観光商品開発や情報発信を行っています。旅行形態は多様化しており、観光客が高い満足度を感じることができるよう、地域資源の魅力付けや町全体のおもてなし力の向上が必要です。
- ◆ホッケー、サイクリング、ボート競技など、本町が有するスポーツ環境を活かし、国内外のスポーツ合宿誘致や、スポーツツーリズムを通じた交流人口の拡大と関連産業の振興につなげることが期待できます。

10年後のめざす姿

たたら製鉄や自然景勝地などの観光資源を活かした、魅力ある観光サービスを充実させるとともに、近隣自治体との広域連携や情報発信を強化し、選ばれる観光地

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
入込観光客数	873,482人	880,000人	900,000人
延べ宿泊者数	32,710人	33,800人	35,000人

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町観光振興計画	平成29年度～令和3年度

取組

(1) 観光情報発信・プロモーションの強化

パンフレットなどの紙媒体のほか、ホームページ、SNS、メディアを活用した情報発信を行います。奥出雲町観光協会を中心とした質の高い情報発信及びプロモーションの強化を行い、誘客を図る客層を意識しながら、効果的な情報発信を展開し、観光地の認知度を高めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町公式観光ガイド閲覧数	685,245 PV	740,000 PV	800,000 PV
SNS登録者数	3,615人	8,300人	13,300人

(2) 観光資源の魅力化

たたら製鉄、美肌温泉、神話、自然景勝地、歴史、文化、農林業、食などの地域資源を活かした滞在型・体験型の観光商品の充実を図ります。県と連携した「美肌県しまね」をキーワードにした観光地づくり、イメージ定着を重点的に推進します。また、旅行事業者、関係機関と連携して地域資源の魅力をお届けする旅行商品の造成に取り組みます。雲南園域、木次線沿線地域、比婆道後帝釈国定公園園域など、広域的な連携による観光を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
観光商品数（体験プラン・ツアー）	16件	24件	30件

(3) 受入れ体制の充実

日本遺産及び日本農業遺産登録をシンボルとして、農泊及び農林業体験事業者の育成・支援を行い、受け入れの充実に努めます。地域資源の魅力を伝える観光ガイドや町内観光関連事業者のおもてなし力の向上を図り、快適な観光を実現させます。また、観光協会の体制強化や二次交通等各種サービスの充実により誘客強化を行います。訪日外国人客の受入れ体制の構築に向け、インバウンドへの理解促進を図ります。

ハード面においては、安心して利用できる施設管理を行い、観光地の通信環境やトイレ環境の改善、観光・宿泊施設の老朽化対策を計画的に推進します。地域資源を活用した新たな集客施設を整備することで、新規客を獲得し、観光交流を促進させます。



田植え体験

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
農泊及び農林業体験事業者数	6団体	10団体	15団体
観光事業者向けスキルアップセミナー開催数	3回	6回	6回

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 心温かいおもてなしの気持ちで観光客を迎える
 - 観光資源への理解を深め、魅力を伝える
- 企業・団体
 - 観光客の呼び込み、受け入れ環境づくりに取り組む
 - 行政や観光協会と連携して観光関連商品の開発に努める

基本目標2 人を惹きつける産業をつくる

③奥出雲ブランド構築

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野	<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
			☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

施策を取り巻く社会情勢

経済のグローバル化に伴い、安価な農畜産物や加工品の輸入量の増加、食に対する価値観やライフスタイルの変化により、消費者ニーズの多様化や安全・安心に対する関心の高まりで、より一層の産地間競争が激しくなっています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆「仁多米」、「奥出雲和牛」、「そば」、「椎茸」、「舞茸」など、本町には全国に誇れる農林畜産物がたくさんあります。「仁多米」は、これまで米・食味分析鑑定コンクールにおいて金賞を10回受賞。「奥出雲和牛」は、一定のブランドを確立し、「そば」「椎茸」「舞茸」ともに、市場での評価は高いものがあります。
- ◆しかしながら、消費者ニーズの多様化などにより、産地間競争は激化しているため、より一層のブランド力向上を図る必要があります。
- ◆また、少子・高齢化が進み、担い手不足が深刻化するなか、農林畜産物の品質の維持向上と生産量の維持拡大に努めなければなりません。

10年後のめざす姿

奥出雲ブランドを確立し、県内外でのさらなる認知度の向上と、同種の農畜林産品と比較して有利な販売が実現され、「食」といえば「奥出雲町」といった地域イメージが確立したまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ふるさと納税寄付額	35千円	35千円	35千円

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 農畜産物のブランド化

本町の資源循環型農業を活かした「仁多米」、「奥出雲和牛」、「そば」は、さらなるブランド価値を高めて、確固たる地位を築き、「エゴマ」、「露地・施設野菜」、「花き」、「果樹」、「豆類」などは、関係機関と協力した生産振興に努め、新たなブランドの確立を図ります。

また、新たな販売チャンネル（ネット通販など）を利用した農林畜産品の販路開拓、農業遺産の認定を活かした情報発信とPR、イメージアップを図り、奥出雲町ブランドの普及・浸透に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「たたら製鉄由来の資源循環型農業」ロゴマーク使用承認数	36件	66件	96件

(2) 林産物のブランド化

奥出雲椎茸の「雲太」のブランド価値を高め、高値有利販売に向けた取組を支援します。また、県産材「しまねの木」の利用拡大に向け、県が進める「しまねの木活用工務店」のPRや、高品質・高付加価値木材製品の出荷割合を増やす取組を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
菌床椎茸販売単価（全国平均価格との対比）	108%	110%	110%

(3) 地域資源や伝統技術を活かしたブランディング

たたらや算盤、木工芸品等、伝統産業から生み出される素材や製品を活用した、新たな製品、サービスづくりを支援します。また、日本農業遺産認定の知名度を活かし、デザインやストーリー性など付加価値の高い製品づくりを促進します。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
たたらブランド関連製品件数	24件	27件	30件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 町内産の農畜林産物を町内外へアピールする
 - 地域での農業を盛り上げる
 - 奥出雲ブランドの商品購買に努める
- 企業・団体
 - 地域内産品の販売促進及び販路拡大をする
 - 農畜林産物の新たな価値を創出する

基本目標3 活力と地域を支える担い手をつくる

①経営支援・担い手育成

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする	
																		<input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる	
																			<input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
																			<input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット																		<input type="checkbox"/>	

施策を取り巻く社会情勢

生産年齢人口の減少により介護、運送業、建設業をはじめとする各種分野で労働力の確保が困難になるといわれています。中山間地域においては、進学や就職とともに若者の流出が進んでおり、一次産業や建設業、製造業などの地域産業の後継者や医療・福祉・介護などの生活サービスの担い手となる人材を確保することが大きな課題となっています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町の就業者総数は減少傾向にあり、各種産業従事者の高齢化や担い手不足が著しい状況です。
- ◆基幹産業である農業では、経営基盤が小規模で、兼業農家が多く、また、従事者の高齢化と担い手不足により、耕作放棄地や遊休農地の増加が懸念されます。農地の集積やスマート農業の活用等による経営の改善とともに、営農組織の法人化や中心的経営体などの育成を進めることで、安定した農業経営ができる担い手を確保することが急務となっています。
- ◆林業の就業者は、10年前の68人から34人と半減し、森林整備に対する担い手が確保できていない状況であり、林業の経営基盤を強化するとともに、労働条件や就労環境の改善を進めることにより、新規就業者を確保していくことが求められています。
- ◆町内誘致企業においては、新規学卒者やU I ターン者の地元雇用の受け皿となっている反面、開発系エンジニアの確保が課題となっており、専門性の高いエンジニアの確保支援が求められています。
- ◆医療・福祉・介護などの生活サービスや建設業などの社会インフラの維持管理に不可欠な業種においても、担い手が不足しています。

10年後のめざす姿

農業・林業をはじめとする地域産業の経営基盤が強化され地域経済を支えるとともに、地域貢献の志とチャレンジ精神を持つ若い人材が地域産業を支えるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人口一人当たりの町民所得	2,278千円	2,400千円	2,500千円
就業者のうち25～40歳の就業者の占める割合	19.1%	25.0%	30.0%

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 地域産業の担い手育成・確保

雲南雇用対策協議会において、ハローワーク雲南と連携し、管内企業の情報提供等を行い、新規高卒者等向けの研修会開催など管内就職者への支援を行います。また、無料職業紹介所やハローワーク雲南をはじめ関係機関による求人求職情報の提供を行い、U I ターン就職や若い世代の回帰や定住の促進を図ります。地域資源を活用した小さなチャレンジを応援するため、人材育成を目的としたチャレンジスクールを開催し、地域で起業又は第二創業・副業を支援するとともに、新たな活動にチャレンジする人材の掘り起こしの場として、人材起業セミナーを開催します。

教育現場での地域医療教育、医療職場体験等の支援を継続し、将来地域貢献するという意志を持って進学する地域卒推薦制度を利用した医師及び看護師の確保を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
新入研修会参加事業所数	3事業所	5事業所	7事業所

(2) 営農組織の強化と担い手の育成

営農組織の法人化に向けた集落内アンケートや経営相談、事業継承支援による担い手対策を法人化推進チーム（県農業普及部、JAしまね、県農業振興公社）や島根県農業経営相談所と連携を図って推進します。

また、中心的経営体（人・農地プランで位置づける地域の担い手）となる担い手に対する農地中間管理機構による農地利用集積をすすめ、協力金・支援金の取得を促進し、遊休農地・荒廃農地の発生防止に努め、経営基盤の強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認定農業者（農業経営改善計画の認定を受けた者）の数	70人	75人	80人

(3) 林業の担い手と就業者の確保

木の駅事業「オロチの深山きこりプロジェクト」と連携して各種技術講習会を実施し、自伐林家育成を目指します。島根県農林大学校への進学生募集活動に協力し、将来的に町内の林業経営への就業者の増加を目指します。島根県林業魅力向上プログラム（県単独事業）を活用した林業経営体強化施策を支援し、林業従事者の増加を目指します。こども版きこりプロジェクトを実施し、子供たちの林業への理解と関心を深めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
オロチの深山きこりプロジェクト会員数	64人	78人	83人
森林組合林業従事者数	30人	32人	35人

(4) 人材不足業種への人材確保支援

都市部で開催されるUIターン相談会などに積極的に参加し、地域の求人情報を相談者に届けるとともに、無料職業紹介所において、企業の求人情報を掘り起こし、求職者に届けマッチングを支援に継続して取り組みます。また、UIターン希望者に対し、有効となる求人情報を定期的に提供します。また、地域の人材不足に対応するため、事業者が協同して雇用し、人材をシェアする仕組みづくりに取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
無料職業紹介所求人求職マッチング件数	8件	33件	58件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 地域の産業や企業を応援する
 - 奥出雲町で働く
- 企業・団体
 - 産業の担い手を育成する

基本目標3 活力と地域を支える担い手をつくる

②起業支援と新たな働き方の推進

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input checked="" type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		関連するSDGsターゲット <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

地域経済の活性化を図るため、地方ではこれまでも積極的に企業誘致が進められてきましたが、近年では新興国の賃金上昇により国内回帰する製造業の動きや、場所を選ばないリモートワークの働き方により、新しい形の企業誘致が進んでいます。

また、民間活力を高めていくためには、引き続き地域の開業率を引き上げ、雇用を生み出し、産業の新陳代謝を進めていくことが重要との観点から、産業競争力強化法に基づく創業等の支援が恒久措置されるなど、国を挙げて起業創業への支援が行われています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆平成27年度より起業創業支援に取り組み、令和元年度までに11件の起業・創業がありました。これら起業家の輩出により、地域経済の活性化と雇用機会の創出が図られています。また人口減少が続く本町では様々な地域課題が生じているため、これら地域課題の解決に繋がる起業・創業も求められています。
- ◆地域産業の活性化のため今後も引き続き起業・創業を推進していくためには、起業・創業に関心を持つ人々を増やし、起業・創業できる人材の育成から起業・創業後の事業成長に至るまで、一貫した支援施策の取組が必要です。
- ◆本町の事業所の大半は中小企業・小規模事業者であり、少子高齢化や人口減少により経営環境は厳しい状況に置かれています。今後、ますます労働者の確保が難しい状況が懸念されるなか、ICT技術を活用した新たな働き方を取り入れることで、多様な担い手を確保しながら事業活動を展開することが求められています。

10年後のめざす姿

新たな視点や価値観で起業・創業する事業者が輩出され、さらにICT技術を活用した新たな働き方の推進により多種多様で魅力ある就業の場が確保されているまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
起業家数(累計)	13件	18件	23件

関連計画

関連計画	計画期間
創業支援等事業計画	平成28年度～令和4年度

取組

(1) 起業支援の促進

「起業創業支援施設古民家オフィスみらいと奥出雲」を拠点に、商工会や金融機関、しまね産業振興財団等の支援機関と連携し、起業希望者に対する相談対応や起業に必要なスキルや知識の習得支援、起業後のフォローなど、きめ細かい支援を行います。また、継続的に起業者を輩出するために、セミナー等により起業への機運醸成を高める取組を進め起業希望者の拡大を図りながら、地域課題を新たなビジネスチャンスとして捉える柔軟な取組も支援し、既成概念に捕らわれない起業家の輩出を目指します。



起業支援セミナー

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
起業相談・支援件数(実人数)	23人	40人	50人

(2) 企業誘致の推進・新たな働き方の推進

ワークライフバランスの実現を図るため、ICT技術を活用したリモートワークなどの導入により、女性、若者、高齢者、障がい者など様々な人材がライフステージに応じた柔軟な働き方が選択でき、多様な人材が活躍できる環境作りに取り組む事業所を支援します。また、こうした働き方を導入しやすいIT関連企業の誘致も受入れながら、多様で魅力ある雇用の場の創出を図ります。

農業や林業など町内に豊富に賦存する地域資源を活用した雇用の場の創出として、閑散期に他の仕事に従事する半農半Xなど、新しい雇用機会が創出されるよう環境整備に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町内でリモートワークに取り組む事業所数(累計)	3社	5社	10社



みんなが協力できること

- 町民・地域 ● 起業・創業に関する情報に触れ、関心を持つことに努める
- 企業・団体 ● 社会情勢に応じた多様な働き方を推進する

基本目標4 人々がつながるコミュニティをつくる

①定住の促進

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

施策を取り巻く社会情勢

若い世代が進学や就職により、地方から流出しており、地方にとって若者の移住定住は重要な課題となっています。特に20代から30代の女性の人口流出が著しく、**人口減少に歯止めをかけるにはこの世代と地域との関りを深め、定住につなげていく必要があります。**また、首都圏一極集中の流れの中、全国的に移住施策が激化し、移住先として認知してもらうためには、更なるPRと先進的な施策が必要とされ、若者や女性が魅力を感じるまちづくりが今求められています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 住みたいまちとしての魅力を高めるために、移住定住の基本となる住まいの確保が課題となっています。特に単身用住宅は、慢性的に不足しており世帯用住宅についても町営住宅以外の空きが無く、空き家バンク登録物件についてもすぐ入居できる物件が少ないため、移住希望者と住宅のマッチングが難しい状況にあります。
- ◆ 町内企業の求人情報を広く情報発信し、求職者に届けるために無料職業紹介事業に取り組んでいますが、中高年層のマッチングにとどまっており、今後は若い世代のマッチングを増やす必要があります。
- ◆ 横田高校の約8割が進学に伴って町外に転出しており、町内就職の学生は10名程度と低い水準となっています。町内企業の賃金も上がりつつあるものの、町外企業と比較すると低い状況にあるとともに、若者が求める職種が少ない状況にあります。UIターンを促進させるために、魅力ある仕事の創出と低価格の賃貸住宅の提供が求められています。
- ◆ テレワーク、リモートワークの拡大により安定した通信サービスの提供は、新しい生活様式の実現には不可欠な要素の一つとなっています。今後、情報通信技術を活用した仕事、活動に対応できるインフラ整備が求められています。

10年後のめざす姿

子育て世代が充実した生活を送り、奥出雲町の魅力を感じながら、安心して幸せに暮らせるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
社会動態の減少幅の抑制 (人口ビジョン取組目標)	0人	60人	60人
UIターン者数 (二人世帯以上の転入者数) (人口ビジョン取組目標)	69人	98人	98人

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町公営住宅等長寿命化計画	令和元年～令和10年

取組

(1)「住みたい」を叶える環境づくり

公営住宅や空き家バンク制度などの、賃貸物件や空き家情報を収集し、情報を一元化して発信し、個別ニーズに合った住宅環境の選択肢を与えることで、ライフスタイルに応じた住宅を見つけ出せる環境を整えます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
空き家バンクを通じた移住希望者との住宅マッチング成約件数	10件	10件	10件
公営公社世帯用住宅の入居率 (基準日：毎年1月末)	91%	93%	95%

(2) 奥出雲を愛する関係人口づくり

奥出雲町に関心を持ち、関わりたい都市住民等に対し、伝統行事やイベント、集落活動への参加、社会貢献などを通じて、関係人口として町との関係をより深めることで移住・定住を促進します。関係人口の拡大を図るうえでは、団体や集落また各種組織や企業など、受け入れ可能な関わりしるの情報を収集し、人と人をつなげる仕組みを整えます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
お試し暮らし体験受け入れ組数	2組	10組	10組

(3) 町内就業の促進

若年層には、企業見学や企業紹介チラシなどにより、町内企業への理解を深める機会を設け、「奥出雲で就職する」ことが一つの選択肢となるよう各種情報を提供していきます。また、少子高齢化に配慮し、求職者とりわけ再就職希望者やUIターン者等には無料職業紹介所を通して雇用・定住につながるよう職業紹介に努めます。

また、人手不足に悩む企業から有効な求人情報を掘り起こし、特にUIターン者に対し情報を提供していきます。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
横田高校生の管内就職率	63%	70%	70%
無料職業紹介所求人求職マッチング件数 (再掲)	2件	5件	5件

(4) 情報発信による移住定住の促進

移住希望者が「奥出雲町の暮らし」をイメージできるよう、移住希望者にとって有益となる各種情報を一元化し、インターネットなどを活用して広く発信します。また、田舎暮らしに関心を寄せる若年層や子育て世帯等をターゲットとして、時代に合わせた移住に関する情報を発信し、相談に当たれるよう環境を整え、町の魅力を発信していきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町定住支援サイトユーザー数	28,252ユーザー	36,000ユーザー	48,000ユーザー

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - UIターン希望者の紹介と声掛けをする
 - 関係人口の受け入れと交流を促進する
- 企業・団体
 - 職場環境の整備と職員の処遇を改善する
 - 社会人向けインターンシップを受け入れる

基本目標4 人々がつながるコミュニティをつくる

②住民主体のまちづくり

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

高齢化と人口減少が著しい地方にとって、住み慣れた地域で安心して暮らし続ける仕組みづくりは、重要な課題です。行財政改革が叫ばれる中、重要な公的住民サービスの維持継続は多額な資金が伴う上、これまで生活に必要な民間サービスが閉店や廃業となり、安心して暮らし続けるための機能が衰退してきています。また、これまで行われてきた住民同士のコミュニティ活動も減少傾向にあり、お互いの見守りや生活する上での支え合いが薄れつつあります。このため、生活に必要なサービスの維持・確保が急務となっており、公民館を単位とする地域で住民主体の「小さな拠点づくり」の取組が求められています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆住民自ら主体性を持った活動を推進することで、多様性に満ちた住民活動を展開し、地域を支える人材の確保・育成を図り、伝統文化や習慣を受け継ぎ・守り続ける仕組みづくりが求められています。
- ◆核家族化による生活形態の多様化により、これまで地域の中心的組織であった自治会組織に加入しない者が増えつつあるとともに、高齢化による老々・独居世帯の増加に伴い自治会コミュニティの維持継続が難しくなっています。そのため、役割を整理し、互いに協働する仕組みづくりが求められています。
- ◆地域を支える住民主体のまちづくりを進めるうえで、公民館を単位とする地域で住民自ら生活に必要なサービスを維持・確保しつつ、住民が互いに支え合う仕組みづくりに取り組み、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための「自助、互助、共助、公助」のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」が求められています。

10年後のめざす姿

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる住民主体のまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域活動における住民参加意向（町民意識調査）	53.5%	60.0%	65.0%
地域活動に参加している町民の割合（町民意識調査）	46.8%	54.0%	60.0%

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 小さな拠点づくりの推進

公民館を単位とする地区において、住民主体の「小さな拠点づくり」を推進し、住民の皆さんの話し合いのもと、生活に必要なサービスを維持・確保し、地域資源を活用した賑わいを創出するなど、「自助、互助、共助、公助」のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
小さな拠点づくりに取り組む地区（公民館単位）	7地区	9地区	9地区

(2) 幸せで安心して暮らせるまちづくり

住民が相互扶助の精神により、互いに助け合い、支えながら、生きがいを感じ「幸せ」に暮らしていくため、小さな拠点づくりと一体となった「地域包括ケアシステム」を構築することで、複雑化・多様化するニーズに対応できる仕組みづくりと生活機能や生活交通を維持・確保し、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

また、ICTを活用した見守りがこれからも継続して行えるよう通信インフラを整備していきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域見守り活動等実施回数（民生児童委員による）	2,631件	2,650件	2,670件

(3) 未来を担う人づくり

住民提案型のコミュニティ活動を支援し、推進するとともに、女性の参画を促し、地域を支える人材や地域づくり、コミュニティビジネスを実践する人材の確保・育成を図ります。また、地域と学校が一体となって子どもたちを育むふるさと教育など、多様な主体が参画する協働体制を構築するとともに、新たな担い手として関係人口の創出・拡大を図るため地域と関われる機会や場をつくり、まちの未来を担う人づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
きらり輝く地域づくり事業採択団体数（延べ）	87団体	162団体	237団体
まちづくり中間支援組織数	2団体	3団体	5団体

(4) 価値を生み出すまちづくり

地域がきらりと輝く活動や地域の資源である「ヒト・モノ・コト」を活かした新たな事業やサービス等をつくるため、「小さな起業」や「コミュニティビジネス」を起こす人やチャレンジする人が集まり学ぶ場を設けます。また、地域住民と「まち」に関わる多様な人材が交流を図りながら、本町にしかない魅力に磨きをかけ、奥出雲の「ヒト・モノ・コト」を輝かせ、新しい価値を生み出せるまちづくりを目指します。



地域づくり発表会の様子

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2019年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人材育成関連事業及び地域づくりセミナー等参加者数（累計）	1360人	2110人	2860人
起業相談支援件数（再掲）	23件	40件	50件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - お互いができることを担い、支え合う相互扶助の精神を持つ
 - 各地区において、「小さな拠点づくり」により、地域づくりを実践する
- 企業・団体
 - 自助、互助、共助、公助のバランスの取れた持続可能な「まちづくり」を支援する

基本目標4 人々がつながるコミュニティをつくる

③多様性社会の推進

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット																		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

現在の日本では、憲法に男女平等がうたわれているにもかかわらず、政策・意思決定過程への女性の参画率の低さ、男女間の賃金格差、育児・家事へ参画する男性割合の低さなど多くの問題があり、男女共同参画社会の実現は未だ道半ばにあると言えます。近年、ダイバーシティのある社会を目指し、民間企業を中心として「目に見えること」だけでなく、価値観などの「目に見えないこと」も含めてあらゆる違いを認め合い、その違いを利点としていかしていく考え方が主流となってきています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町の人口は毎年約250人の減少を続けているのに対し、高齢者人口は微増し高齢化率は全国平均を大きく上回っており、今後もますます高くなることを見込まれます。また、高齢化や核家族化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が年々増加してきています。
- ◆豊富な経験や知識を有する高齢者の方々の関わりの場が限られ、知り合う機会が少なく、また、多様な人材を活用し合える地元の仕組みづくりが希薄になってきています。
- ◆地域コミュニティにおいて、高齢者・男性が中心となって活動が進められることが多く、依然として若者や女性の活動への参加、世代間のつながりが弱い現状にあります。また、男女が協働で子育てや仕事を両立し、共に責任を担う意識が低い傾向にあります。
- ◆今後は高齢者の生きがい対策として、高齢者の豊富な経験から得られた技術や知識が生かせる場や交流の機会を確保することが必要となってきています。

10年後のめざす姿

ダイバーシティのある社会を目指し、様々な「違い」を乗り越えて、みんなで何かを成し遂げるための相互理解と情報共有、「目的に向かって協力し合う気持ち」のあるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
男女共同参画社会の推進に町として達成していると感じている町民の割合（町民意識調査）	14.4%	22.2%	30.0%
奥出雲町 管理職に占める女性割合	25.0%	25.0%	27.0%

関連計画

関連計画	計画期間
第二次奥出雲町男女共同参画計画	平成28年度～令和2年度

取組

(1) すべての世代が笑顔で暮らせる社会づくり

地域のなかで、高齢者や子どもたちが集いふれあえる交流の場を提供し、世代間の交流を促進します。また、高齢者が培ってきた知識や経験等を次世代に継承し、女性や若者の意見提案などお互いの違い等を受け入れ、尊重し合う多様性の大切さに気づけるような公民館活動、生涯学習の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
世代間交流を意図した公民館活動数（単年）	18回	22回	27回

(2) 多様な人材が活躍する仕組みづくり

性別による固定概念だけでなく、価値観などの偏見を取り払い、それぞれの個性や考え方、能力に応じ、社会参加ができるよう普及啓発を推進するとともに若者や女性の声を地域づくりに反映する場を設けるなど多様な人材が地域社会の維持存続に向けて活躍するコミュニティ活動を支援していきます。

また、女性が社会参加しやすい体制づくりと、性別、年齢、価値観などが共に尊重される仕組みづくり、みんなで支え、協働しあえる家庭、職場、地域づくりを推進し、誰もが社会に貢献し生きがいを感じいきいきと暮らせるまちづくりに取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町各種審議会等女性委員の割合	22%	23%	25%

(3) 高齢者の活躍推進と社会参加の促進

シルバー人材センター会員数、老人クラブのクラブ数、加入者数は年々、増加傾向にあります。今後もこの状態を維持し、更に若手会員や女性会員の積極的な参加を社会福祉協議会などの関係団体と連携し促進します。

高齢者の方々が、これまで様々な分野で培ってこられた経験を活かしながら、地域社会の一員として大きな役割を担い、町全体の一層の活性化を図ります。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
シルバー人材センター会員数	235人	245人	250人
老人クラブ加入者数	1,186人	1,200人	1,250人

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 共に協力し合う意識を持つ
 - 価値観の違いを認め合う
- 企業・団体
 - 多様な人材登用を検討していく

※ダイバーシティ：多様性という意味の英単語(diversity)で、組織マネジメントや人事の分野では、国籍、性別、年齢などにこだわらず様々な人材を登用し、多様な働き方を受容していこうという考え方の意。

基本目標5 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

①結婚・子育て支援の充実

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input checked="" type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

令和元年の出生数は90万人を割り込み、「86万ショック」とも呼ぶべき状況となりました。合計特殊出生率も、ここ数年微減傾向にあります。少子化の主な原因は、未婚化・晩婚化と、有配偶出生率の低下であり、背景には経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、男女の仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感、子育てや教育にかかる費用負担の重さなど、個々人の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な要因が複雑に絡み合っており、結婚、妊娠・出産、子育てに希望を持つことができる環境づくりに取り組む必要があります。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 奥出雲町では、安心して子育てができるよう出産祝金、保育料軽減、医療費助成など経済的負担の軽減を図ってきました。また仕事と子育ての両立を支援するため、病児保育やファミリーサポート事業を始めていますが、休日保育等の多様なニーズもあり、事業の実施が求められています。子育ての不安に寄り添えるように様々な事業の周知を進める必要があります。
- ◆ 妊娠・出産・子育て・就学へつながる発達支援や産後にうつ傾向になる方などへの、妊娠期から子育て期までの相談支援や育児支援が必要です。また、包括的に取り組める切れ目のない支援体制づくりが必要です。
- ◆ 少子化が一段と加速していく現状にあり、その背景には未婚者や晩婚者の増加があります。しまね縁結びサポートコンピューターマッチング「しまコ」の周知や出会いの機会を創出し、縁結びのサポートをする必要があります。また、晩婚等による不妊に悩む夫婦を支援する取組が必要となっています。不妊治療助成制度を行っていますが、知名度は約4割にとどまっている状況です。

10年後のめざす姿

出会いを通じて奥出雲町の魅力を感じ、結婚した後も住みたいと思うまち
 子育て環境がさらに充実し、「子育てするなら奥出雲」と思えるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
出生率(合計特殊出生率)	1.70	1.75	1.80
出生数	50人	60人	70人
婚姻数	40件	45件	50件

関連計画

関連計画	計画期間
第2期奥出雲町子ども・子育て支援事業計画	令和2年度～令和6年度

取組

(1) 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

仕事と子育ての両立を支援する取り組みとして、放課後児童クラブ、一時預かり保育の継続実施、核家族や共働き世帯を地域でサポートするファミリーサポート事業等ニーズに応じた子育て環境を整えるとともに、子どもが伸び伸びと遊べる屋内型遊び場の整備や子育て支援センターをさらに充実していきます。

また、働きながら安心して子育てできる事業所の職場環境づくりを推進するため、「おおいずも子育て応援事業所」の認定奨励事業をさらに進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
この地域で子育てしていきたいと思う保護者の割合(幼児健診時)	97%	100%	100%

(2) 安心して子育てができる支援体制の推進

不妊治療を希望する方にとって、受けやすい体制となる不妊治療費助成事業の制度の拡充を行い、制度の周知を徹底します。妊娠から出産・子育ての相談窓口を一本化し、関係機関と連携し妊娠期から子育て期まで切れ目のない相談支援体制整備や、産前産後の家事や育児サポート等、妊娠期から利用できるサービスの充実を図ります。

保護者の多様な就労形態や様々な家庭環境に対応するため、病児保育の充実を図り、休日保育の実施を推進します。また、相談者へ子育てに必要な幅広い情報提供を積極的に行う「結婚・子育てコンシェルジュ事業」の継続実施、リアルタイムで情報の提供ができるようWEBサイトや情報誌等で子育て情報を発信します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
不妊治療の認知度(妊娠届時調査)	40%	70%	100%
産後4月未満の訪問時に産後のうつ得点が9点以下の産婦の場合	100%	100%	100%

(3) 幸せな未来をつくる出会いづくり

若い男女が奥出雲町に住んでみたいと思えるように、出会いの場を町内で開催するなど、奥出雲町の魅力を発信します。婚活イベントにあってはトレンドを把握し、若者の関心を高め参加意欲につなげます。また、出会いへの意識の高揚を目的としたイベントの事前セミナーや個別相談を実施します。縁結び支援員、結婚・子育てコンシェルジュ、地域サポーター等が連携し、結婚を望む方の個別マッチングや成婚に向けてのアドバイス等相談者に寄り添ったきめ細やかな取り組みを進めます。

さらに、しまねコンピューターマッチング「しまコ」の運用を支援し、しまね縁結びサポートセンターと連携した出会いの環境整備に取り組みます。また、中学・高校生を対象に、結婚や出会いを含む人生設計を考える機会を設けるため、ライフプランセミナーの実施を推進します。



出会いのグランピング

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
出会いの場の件数	22件	27件	32件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 地域で協力して子育てをする
- 企業・団体
 - 子育てしやすい職場環境をつくる

基本目標5 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

②学校教育の充実

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input checked="" type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input checked="" type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット																		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

新学習指導要領（小学校は令和2年度、中学校は令和3年度、高校は令和4年度から実施）により、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指し、各学校で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点で授業や活動を行うこととなりました。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 旧村単位で小学校10校、旧町単位で中学校2校ありますが、児童生徒数は令和2年度の793名（小511名、中282名）から令和8年度には643名（小394名、中249名）に減少することが見込まれています。
- ◆ また、町内には島根リハビリテーション学院、島根デザイン専門学校の2つの専修学校が立地し、学びの場の提供を通じた町外からの若者の受入機関としての役割を担っています。
- ◆ 令和元年度に策定した「奥出雲町の目指す子ども像」に沿って、奥出雲町への愛着と誇りを持ち、自らとふるさとの未来を切り拓こうとする子どもを育成するため、新学習指導要領を踏まえながら学校運営（支援）体制の充実と環境整備、地域との関わりを確保する取組が必要となります。
- ◆ また、島根県が取り組む「しまね留学」をベースに、横田高校への入学者数確保、1学年3クラス維持に町として取り組んできました。今後も町外からの生徒を確保し、横田高校生の活動が地域の活力につながるよう、その支援を継続する必要があります。
- ◆ 少子化が進む中、専修学校、高校及び地域が連携して入学生の確保に繋がるよう支援が求められています。

10年後のめざす姿

奥出雲町全体や自分が生まれた地域との関わりについて考えながら、将来の夢や目標を定める児童生徒が多数いるまち
 専修学校の生徒が積極的に地域と関わりを持ち、医療、芸術の分野から奥出雲の発展に貢献する人材育成の場となっているまち

まちづくりの目標

指標（KGI・Key Goal Indicator / 重要目標達成指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町のために貢献したいと思う子どもたちの割合（%） （独自アンケート実施結果による）	73%	80%以上	85%以上

関連計画

関連計画	計画期間
横田高校魅力化ビジョン	平成29年度～令和3年度

取組

(1) 再編を見据えた学校運営（支援）体制の充実と施設整備

子ども一人ひとりの発達に応じた教育を行えるよう、特別支援が必要となる子どもにかかる幼稚園との連携、発達検査等支援体制の充実、各学校への特別支援員継続配置などに努めます。また、小学校再編を見据えながらも、目指す子ども像の育成に必要な教材備品、ICT機器の整備、学校施設整備を着実に進めます。



大型提示装置を使った授業

KPI（Key Performance Indicator/重要業績評価指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
普通教室、特別教室への大型提示装置の設置割合	19%	60%	100%

(2) 子どもが地域と深く関われる学びの体制づくり

子どもたちの健全な成長には地域の支えが必要です。地域の関わりが子どもたちの郷土への愛着を深めるため、公民館や地域組織を主体とした学び活動、行事が実現できるよう、新たな人材の配置などを含めた学びの体制づくりを進めていきます。

併せて、地域住民や企業、団体の皆さんに各学校でのふるさと教育、キャリア教育に今まで以上に携わっていただけるような仕組みづくりを進めます。

KPI（Key Performance Indicator/重要業績評価指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ふるさと教育、キャリア教育などの地域協力者リストの整備 （1公民館区につき30名以上）	0地区	4地区	9地区

(3) 横田高校・専修学校の魅力化

総合的探求の時間における「奥出雲学」、独自の海外交流事業など多様な学習活動ができる奥出雲町唯一の高校としての横田高校を支援し、横田高校地域協働コンソーシアムと連携しながらその魅力化事業をさらに推進します。

また、奨学金制度等による支援により、学生の負担を軽減し、専修学校の魅力化に繋がります。



地域活動 FUN!CLUB

KPI（Key Performance Indicator/重要業績評価指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
横田高校 県外入学者数	4人	10人	15人

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 横田高校生との活動へ積極的に参加する
 - 専修学校の学生との地域交流に協力する
- 企業・団体
 - ふるさと教育や地域行事などで児童生徒と関わる機会を増やす

基本目標5 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

③社会教育の充実

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野															
		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる															
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

過疎地域では人口減少や高齢化が進展し、コミュニティ機能の低下に伴う様々な課題が深刻化していくなか、住民主体でこれらの課題や社会環境の変化に対応することが求められています。また、地域の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことも期待されています。こうしたなかで、地域における社会教育には、生涯にわたる学びを支援し、住民相互のつながりの形成を促進することに加え、地域の持続的発展を支える取り組みに資することがより一層期待されています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆派遣社会教育主事の指導及び研修や県事業の活用を通して公民館職員の資質が向上し、各地区特色ある公民館事業が展開されるようになってきています。また、公民館と地域、学校が連携した活動を実施し、継続した取り組みとなってきましたが、参加者は固定化し、比較的高齢層になる傾向がみられ、幅広い世代での交流の場や機会は減少してきています。
- ◆「地域づくりを担う人づくり」を目指し、公民館活動を中心に、自分ごととして主体的な取り組みにつながるような、人づくり、地域づくりにつなげていく必要があります。
- ◆地域や学校における継続した「ふるまい向上運動」の推進は、徐々に子どもたちに定着した取り組みとなってきました。さらに、保護者を含む大人を巻き込み、地域全体で推進していく必要があります。
- ◆人権同和教育・啓発を進めたことにより、人権問題への関心は高まっていますが、社会全体においてハラスメントや人権侵害の問題等、人権に関わる新たな問題も生じている現状があります。

10年後のめざす姿

奥出雲町の風土・歴史・文化を愛し、この町の発展に資する人間力を培うための、地域の多様な人材を巻き込む社会関係資本（ソーシャルキャピタル＝人と人との信頼し合えるつながり）が構築されているまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町に愛着を感じている町民の割合（町民意識調査）	73.6%	76.8%	80.0%
地域活動に参加している町民の割合（町民意識調査）（再掲）	46.8%	51.8%	56.8%

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 社会教育と連携したふるさと教育・キャリア教育の拡充

生まれ育ったふるさとで「ヒト・モノ・コト」との関わりを通じた学習を推進していきます。特に、小学校ではたたら体験学習に、中学校では町ぐるみの職場体験学習に継続して取り組みます。

公民館を中心に「地域にふれ・学び・働きかける」ことを意識した活動を行い、地域住民が地域を知り、ふるさとへの愛着と貢献意欲を育むことができるような公民館活動の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「地域にふれ・学び・働きかける」ことを意識した活動の継続	34回	34回	34回

(2) 奥出雲を愛する多様な人づくり

町内親学ファシリテーターを育成しつつ、保護者を対象とした「親学プログラム」を積極的に周知活用し、様々な人と相談しながら子育てができる場を提供していくとともに、模範意識や社会性を身につける「ふるまい向上」の取り組みを推進します。地域の将来を担う若者が集い、活躍できる仕組みづくりや世代を超えたつながりを育む公民館活動の充実を図ります。学校再編を視野に入れた地域社会環境の整備や地域と連携した学びの体制づくりを強化します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
世代を超えたつながりや若者育成を意図した活動の継続	17回	17回	17回

(3) 社会教育における学びの充実

公民館事業に「参加型学習」を取り入れる等、住民が主体的に地域の課題解決やまちづくりに関わるきっかけ作りや地域の大人が子どもの学び・体験に関わる機会を増やし、大人も子どもも集い、学べる場を提供します。

各世代が共に参画する地域コミュニティづくりをめざし、小さな拠点づくりと連携を図りながら、多世代交流や体験活動の充実が図れるよう公民館事業を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域の大人が子どもの学び・体験に関わる活動の継続	34回	34回	34回

(4) 人権・同和教育の推進

地域や学校、関係機関、行政が一体となり、学校教育及び社会教育の両面から人権・同和教育を推進し、あらゆる差別をなくし、一人ひとりの人権が尊重される人権社会の実現をめざします。

公民館事業や図書普及等、あらゆる学習の機会を活用した社会教育における人権・同和教育の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人権・同和教育研修の実施	10回	12回	15回

(5) 既存施設を活用した図書館の整備

町全体の公共施設整備計画及び学校再編に伴う既存公共施設の有効活用に基づいた図書館の整備及び多様化する住民ニーズやデジタル時代に即した図書館となるような運用を検討しながら進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町民一人当たりの年間図書貸出冊数	2.3冊	3冊	4冊



みんなが協力できること

- 町民・地域
 - 公民館活動等に参加する
 - 図書館を積極的に利用する
- 企業・団体
 - ふるさと教育・キャリア教育活動に協力する

基本目標5 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

④地域文化・スポーツ振興

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

心身両面にわたる健康の保持増進に大きく貢献する文化・スポーツは、明るく活力に満ちた社会の形成や豊かな人間形成を育む心身の健全な発達において必要不可欠なものであり、一人一人がいきいきとした生涯を送ることにつながります。また、健康保持は医療費節減の効果が期待される等、経済発展にも寄与します。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆文化協会加盟団体を中心として多種多様な文化芸術活動が定期的継続的に取り組まれ、地域の趣向を凝らした文化活動が公民館等で活発に実施されていますが、会員の高齢化の進行に伴い活動の継続が危ぶまれている傾向にある団体が増えてきています。
- ◆結成 30 年を迎える仁多乃炎太鼓や奥出雲神代神楽は、町内外へと活躍の場を広げており、今後も後継者の育成やPR活動に力を入れ、郷土芸能活動による地域活性化を図る必要があります。
- ◆奥出雲のたたら製鉄をはじめ、神話や歴史文化、自然景勝地等、魅力的で貴重な資源が点在し、価値を見出す機運が広がってきています。
- ◆住民の健康づくりを目的とする「奥出雲スポーツクラブ」は徐々に認知度を上げ、毎年 70 名程度の会員数を保っています。今後は健康推進に係る担当課や病院等、関係機関との連携のもとに、住民の健康増進を図り、医療費削減等にもつなげていく必要があります。
- ◆町を代表するスポーツであるホッケーをはじめ、陸上、剣道、バレー等、全国で活躍する地元出身選手を数多く輩出していますが、急激な少子化や学校部活動の在り方等の課題があり、本町におけるホッケー競技の普及やスポーツ振興をどのように展開していくのか、検討が必要です。

10年後のめざす姿

たたら製鉄の歴史や自然景勝地、奥出雲ならではの文化やスポーツ等、地域資源である「奥出雲の宝」を活かした学校教育・生涯学習が充実しているまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
伝統文化・文化財保全活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)	16.0%	23.0%	30.0%
スポーツに関わる活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)	28.2%	33.2%	38.2%

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 文化の薫り高いまちづくりの推進

様々な分野で活動する団体が活躍できる場を提供するとともに、住民が芸術文化に触れ、世代間交流を図ることのできる機会を創出し、文化芸術活動を担う人材を育成します。また、活動拠点の確保などにより郷土芸能活動を支援し、文化芸術活動における普及と振興を図り、地域活性化につながる事業を実施します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
郷土芸能活動団体の会員数	44人	46人	48人

(2) 奥出雲町遺産と国県指定文化財の保存と活用

町が認定した奥出雲町遺産や国、県、町指定の文化財を「奥出雲の宝」として、住民がそれらに親しみ、その価値への理解を深めるように幅広い世代に向けた普及啓発を図り、担い手の確保や次世代への確実な継承につなげます。また、文化財の保存整備・活用において地域と協働した仕掛けづくりを図るために関係課との連携を強化します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「奥出雲の遺産」認定件数	77件	90件	100件

(3) いきいきライフを支える生涯スポーツの充実

スポーツを通じた健康づくりを推進する奥出雲スポーツクラブの充実を図り、住民の健康寿命の延伸と元気で健やかに暮らせる奥出雲町を目指します。また、高齢化が進む中であっても住民が参加しやすい環境の整備(交通手段、地元利用施設等)を図り、関係機関との連携のもと、体制づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲スポーツクラブ会員数	70人	80人	90人

(4) 町民に夢と感動を与えるスポーツ振興

町を代表するスポーツ、ホッケー競技を中心としたスポーツ振興に継続して取り組み、東京オリンピックをきっかけにメディアやSNS等を有効活用し、奥出雲町を国内外に発信していきます。

2030年には2巡目の島根国体(第84回国民スポーツ大会)が開催される予定であり、住民のスポーツに対する機運を高めるとともに、指導者の育成や小中高生の競技力向上を図ります。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
小中高学生と地域のホッケー経験者との交流回数	1回	5回	10回

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 芸術文化活動に参加する
 - 様々な世代とスポーツを楽しむ
- 企業・団体
 - 奥出雲町の芸術・文化活動を応援する
 - 奥出雲町のスポーツ振興を応援する

基本目標5 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

⑤地域間交流・国際交流の推進

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット																		<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

情報通信や経済等におけるグローバル化の波が様々な形で、我々の生活に直接影響を及ぼす中で、社会で生き抜き、さまざまな分野で活躍できる人材の育成と確保が必要となってきます。そうしたなかで、生活や文化、教育、経済等あらゆる面でグローバル化に対応した人づくり・町づくりを進めていくことが期待されています。

また、人口減少・少子高齢化により、地域づくりの担い手不足といった問題に直面する中、都市部にいながら地域や地域の人々と多様に関わりを持つ「関係人口」が注目されています。社会貢献として積極的に関わりたい方、学生のようにキャリア形成のために町に関わる方、実際に訪問しないが、ふるさと納税で応援する方など、多様性に満ちており、それぞれのニーズに対し受け入れができるシーズをマッチングする機能が必要です。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 国際交流協会を核として、アメリカやタイからの高校生受け入れ事業を継続して取り組み、ホストファミリー体験や交流活動の機会に努めてきましたが、ホストを希望される家庭や参加者は固定化の傾向にあります。今後、異文化に対する理解を深め、住民一人ひとりが主役となるホスピタリティあふれる地域づくりを進めていく必要があります。
- ◆ インド出身の国際交流員による幼小への出前講座及び公民館をはじめとする地域での異文化講座等を実施しています。異なる文化や生活習慣をもつ同士が相互に交流して理解を深め、体験の幅を広げていく場合は貴重なものになっています。
- ◆ 今後も企業の人手不足などを背景とした外国人住民の増加や町内への外国人観光客も増加するなど、町民が外国人との関わりを持つ機会が増加することが見込まれるため、国際感覚を持ち、コミュニケーション能力を有する人材の育成や住民一人ひとりが相互理解を深める多文化共生の取り組みが求められています。

10年後のめざす姿

奥出雲町の魅力を活かした地域間交流・国際交流を進め、広い視野を保つ国際的感覚を持った人材を育成し、国内外に開かれたまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
広域間・国際交流推進の充足度（町民意識調査）	23.1%	26.5%	30.0%

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 関係人口の拡大と地域間交流の促進

地域の担い手が不足し、行事や祭事など伝統的な文化の維持存続が危惧される中、出身地域や関心のある地域と関係を持ち、主体的・側面的に関わる関係人口の拡大はこれからの農村社会にとって欠かせないことです。

こうした関わりを大切にし、集落や地域がより深い付き合いを保ちながら交流する地域に育つために、受入れ先の掘り起こしや、人と人をつなぐ仕組みや仲介をする中間支援組織等を育成し、多様な人材と関わる交流の輪を広げていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
公民館活動における広域間 交流イベント参加者数	50人	60人	70人

(2) スポーツ大会・合宿誘致

自然豊かな環境と町内施設を活用したスポーツ合宿を県内外から積極的に誘致し、スポーツによる地域活性化を図ります。また、ホッケー、剣道、アーチェリー等、これまで実施したスポーツ大会の誘致についても積極的に受け入れ、町内のスポーツ振興にも繋げていきます。さらに、町内のスポーツ少年団や地域住民を対象とするスポーツを通じた交流機会の拡大を図ることで、豊かな心の育成につなげます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
スポーツ合宿実施件数	3件	5件	10件

(3) 多文化共生・国際交流の推進

多文化共生社会実現のために、国際交流や多文化共生に関係する団体やALT等との連携のもと、異文化交流活動の充実を図ります。また、中高生を対象とする学びの場や国際交流の機会を拡大するために高校魅力化コンソーシアム等、関係機関との連携を強化していきます。

外国人住民に対して、必要な情報の提供、生活全般にわたる支援を行い、相互理解を促進し、多文化が共生する地域づくりを進めます。



小学校児童と国際交流員

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
異文化交流活動（ALTなどによる出前講座など）の活動回数	2回	4回	9回

みんなが協力できること



- 町民・地域 ● 他の地域や国の人たちと積極的に交流する
- 企業・団体 ● スポーツや国際交流の場を創出する

基本目標6 健やかで安心安全な暮らしをつくる

①健康づくりと介護予防の一体的推進

総合戦略と関連する施策分野	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
関連するSDGsターゲット																	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

近年、核家族や共働き世帯の増加に伴いライフスタイルが多様化し、家庭における健康な食生活の実践に向けたアプローチが困難な状況となっています。また、インターネットの普及等情報の氾濫による健康観の多様化や、就労・家庭生活等多忙な状況にあり、将来の疾病予防・介護予防につながる壮年期からの健康づくりが難しくなっています。令和元年9月現在、日本では高齢者人口が28.4%に及んでおり、令和7年には75歳以上の後期高齢者が2,000万人を超える超高齢化社会となります。要介護の原因の一つである「高齢による虚弱（フレイル）」は、75歳以上の高齢者になると、その割合が急速に増加します。健康寿命を延伸し、要介護状態にある期間をいかに減らすかが喫緊の課題となっています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆脳血管疾患の発症率は島根県より高率ですが、40～50歳代の特定健康診査の受診率は他の年代より低く、更に特定健康診査に係る精密検査受診率は50%と半数は受診していない状況となっています。
- ◆壮年期の肺がん、大腸がんによる死亡率が高いにも関わらず、がん検診の受診者は減少傾向であり、特に若年層、壮年期の受診者は少ない状況です。
- ◆自殺死亡率は島根県・雲南圏域と比較し高値で推移しています。
- ◆朝食の欠食は小・中・高校生で増加傾向にあります。また、3歳児のむし歯有病率は島根県や雲南圏域と比較すると高い状態が続いています。
- ◆介護認定を受けていない65歳以上の在宅高齢者を対象とした「介護予防の仕組みづくりに関する調査」回答者2,751名のうち、健康教室や介護予防の集いの場に参加していないが、参加意欲のある人は2割と低い。健康づくり・介護予防行動の意欲を向上させ、行動変容を促す介入が必要となっています。
- ◆日常生活圏ニーズ調査結果によると、本町では糖尿病や心疾患等の生活習慣病が要介護状態に至った主要因となっています。生活習慣病の重症化予防と介護予防を一体的に推進する必要があります。

10年後のめざす姿

すべての町民が生涯にわたって健康で、明るく、生きがいをもって生活できるまち

まちづくりの目標

指標（KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
65歳の平均余命：男女ともに県下1位	男性13位 女性7位 (2013～2017)	県下1位	県下1位
65歳の平均自立期間：男女ともに県下1位	男性10位 女性4位 (2013～2017)	県下1位	県下1位

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町げんきプラン2-1	平成24年度～令和3年度
奥出雲町食育推進計画	平成27年度～令和3年度
奥出雲町いのち支える自死対策計画	平成31年度～令和5年度
奥出雲町母子保健計画	平成28年度～令和3年度
奥出雲町第3期特定健康診査等実施計画	平成30年度～令和5年度
奥出雲町国民健康保険第2期データヘルス計画	平成30年度～令和5年度
雲南地域第8期介護保険事業計画	令和3年度～令和5年度

取組

(1) 地域ぐるみで取り組む健康づくり

住民や学校・事業所・団体・医療機関・行政が協働して、各世代を通しての健康づくりを支援する環境を整備します。具体的には、幼稚園・学校での健康学習会の開催支援や町内飲食店と連携した事業所の食環境整備、事業所や自治会と連携して壮年期をターゲットに正しい食知識や健康づくりの学習会の開催支援等を行います。また、各団体と連携して、自死予防の啓発やメンタルヘルス対策推進の一助となるよう研修の企画を支援するとともに、地域における自死対策の支え手を育成するため、ゲートキーパー研修を実施します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
食環境の整備に協力する飲食店・事業所数	0カ所	5カ所	10カ所

(2) 健康寿命延伸に対応した健康づくり

生活習慣病の予防を図るため、特定健康診査やがん検診、歯周病検診の受診体制の整備を図ります。また、ICTを活用した、効果的な検診の受診勧奨、医師会と連携した受診率向上対策の検討、未受診者対策、保健指導の充実を図ります。疾病の重症化予防を推進するため、早期の専門医受診につながるよう体制づくりを行います。子どもの頃からの健康的な生活習慣の実践に向けて、むし歯予防の学習会や食育活動等を通じて啓発を行います。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
特定健康診査受診率	41.4%	60%	—

(3) 介護予防の推進

CATV等メディアを活用して地域の人々のつながり、活動の楽しさ、やりがいを感じられる情報の提供や、関係機関・地域の団体と連携して健康づくり・介護予防行動を促します。



高齢者が気軽に参加しやすい身近なところに、住民主体の通いの場（住民が主体的に継続して週1回以上の運動ができる場所等）を立上げるための支援、フレイル予防（運動、口腔、栄養、社会参加等）の普及啓発を行います。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
65歳以上の全住民のうち、週1回以上開催される住民主体の通いの場へ参加する者の割合	6.8%	10%以上	10%以上

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 仲間とともに、誘い合って体操や運動を続ける
 - 会合時などの分煙の徹底を図り、飲酒の習慣を改める
- 企業・団体
 - 町のがん検診を利用する等、受診率を高める工夫をする
 - 企業・事業所において、分煙の徹底を図る

基本目標6 健やかで安心安全な暮らしをつくる

②地域福祉の充実

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野																
		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

施策を取り巻く社会情勢

近年、少子高齢化の進行や生活様式の多様化等を背景に、ひとり暮らしや認知症の高齢者の家庭、介護・子育てに悩んでいる家庭が増加し、問題も複雑化、多様化しています。また、暮らしにおける人と人、人と社会のつながりの希薄化により、地域における支え合いの基盤が弱まってきています。このことから、既存の制度の充実や、地域住民や団体などが協働し、支え合い、助け合いながら支援体制の整備を図る必要があります。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆急速な少子高齢化の進行やひとり親世帯の増加等、社会状況の変化等に伴い、子どもや高齢者・障がい者への虐待、生活困窮などの問題が顕在化しています。また、家族・地域間の繋がりが希薄となり、互助・共助といわれる近隣の人々がお互いに支え合う機能が弱体化しており、地域社会から孤立した人が増加してきています。こうしたことから、支援が必要な人に、必要な支援が行き渡らない事態が発生する可能性が高まっています。
- ◆認知症は誰もがなり得るものであり、家族や身近な人が認知症になる等多くの人にとって身近なものになっています。認知症になると買い物や移動、趣味活動など様々な場面で外出や地域交流の機会が減っていくため生活支援が必要ですが、認知症高齢者を支える介護力は低下しています。認知症への「備え」の取組として認知症に対する正しい知識を普及啓発し、生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望をもって日常生活を過ごせる地域づくりが必要です。

10年後のめざす姿

すべての住民が分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生するまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域福祉の充足度（町民意識調査）	23.1%	26.5%	30.0%

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町地域福祉計画	令和2年度～令和6年度
第6期奥出雲町障がい福祉計画 第2期奥出雲町障がい児福祉計画	令和3年度～令和5年度
雲南地域第8期介護保険事業計画	令和3年度～令和5年度
奥出雲町老人福祉計画	平成30年度～令和4年度

取組

(1) 障がい者福祉の充実

障がいのある方もない方も奥出雲町に住む誰もが、かけがえのない個人として尊重され、住みよいまちづくりと人づくりをめざして、地域住民、サービス提供事業者、関係機関及び行政が連携しながら、障がい者、障がい児の「生活の自立」「社会参加の促進」に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
就労継続支援事業（B型）の利用者数	62人	65人	68人

(2) 生活困窮者の支援

生活困窮者、児童福祉、ひとり親家庭などの相談窓口を設置しており、引き続き、一人ひとりの状況に合わせて自立に向けた支援を行います。関係機関や地域との連携を深めることで、対象者の早期発見に努め、就労や家計、住居確保などの相談対応、ひとり親家庭への児童扶養手当、高等学校通学費の支給、学習支援、ひきこもり対象者等、自立に向けた支援を行います。また、庁内関係部局や各関係機関と連携を図り、多様化する住民ニーズに合わせた必要な支援を検討していきます。公的サービスだけでなく、地域でお互いに理解し、支え合い助け合う地域づくりにも取り組んでいきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
民生委員児童委員の活動件数	2,631件	2,650件	2,670件

(3) 認知症支援対策の推進

認知症への理解と協力を得るため「認知症サポーター養成講座」を開催します。講座の対象を地域住民だけでなく、生活環境の中で認知症高齢者と関わる機会が多い小売業、金融機関、公共交通機関等の従業員等をはじめ、子どもや学生等にも拡充し、幅広い対象へ普及啓発をします。

認知症サポート医、かかりつけ医、認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム、地域包括支援センター等関係機関の連携を強化し、認知症の疑いがある人に早期に気づいて、本人が安心して暮らしていけるよう適切に対応するとともに、認知症と診断された後の本人・家族等に対する支援に繋がります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認知症サポーター養成講座受講者数（年間新規）	10人	50人	50人

(3) 高齢者福祉の充実

高齢者が可能な限り住み慣れた地域の中で、自立した日常生活が送れるよう支援を行います。

自家用車を保有しない高齢者世帯へ高齢者生活交通サポート券及び高齢者タクシー利用助成券の交付を行っています。また緊急通報装置の設置、助け合い除雪制度、一定期間居住することができる高齢者生活ホーム等、高齢者の生活を支える環境づくりに取り組み地域で安全で安心して生活できる環境整備や改善に努めます。



KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
高齢者生活交通サポート券利用率	63%	65%	66%

みんなが協力できること



町民・地域

- 地域の福祉活動に参加する
- 心身の健康管理を心がけ、生きがいのある自立した生活を送る
- 一人ひとりが地域社会の一員であることを自覚し「支え合うこと」、「助け合うこと」の大切さを深く理解する

企業・団体

- 地域の一員として地域の福祉活動に参加する
- ひとり親や障がい者を雇用する
- 個々の特性や体調に配慮できる職場環境をつくる

基本目標6 健やかで安心安全な暮らしをつくる

③地域医療・介護体制の維持・充実

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input checked="" type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
関連するSDGsターゲット																	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

持続可能な医療提供体制の確保を目的とした地域医療構想の下、病床削減、医療圏域・病院ごとの役割分担が求められています。中山間地においては高齢化が進展していく中で受診態様も変化し、急性期医療だけでなく慢性期医療や看取り、在宅医療の必要性が増しています。介護分野においては、高齢者人口自体は減少に向かいますが、要介護状態になる方が多くなる80歳以上の高齢者が増加すると見込まれる一方で、入所施設の増加は見込めないことから、在宅介護サービス、介護保険施設に代わる高齢者向け住まいの必要性が増しています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆地域医療の中核である奥出雲病院は、慢性的な常勤医師不足となっています。
- ◆慢性期医療、看取りの需要増加から、奥出雲病院では一般病床を削減し、療養生活から看取りまで対応できる介護医療院を令和2年11月に開設しました。
- ◆雲南市立病院との連携強化を進めており、その一環として分娩体制を同病院に集約することとしました。
- ◆在宅診療を担う診療所医師の高齢化が進んでおり、一次診療体制の維持が課題となっています。
- ◆介護職場では深刻な人材不足となっており、対策が急務となっています。
- ◆医療介護関係者が事業所間連携により地域課題の解決を図ることを目的とした「奥出雲町医療介護ネットワーク」が組織され、新しい医療介護連携の仕組みづくりが進められています。

10年後のめざす姿

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、適切な病床数・介護施設入所定員数が確保されており、在宅医療・介護サービス提供体制が必要十分に確保されているまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
在宅での介護老人福祉施設入所待機者数	27人	20人	10人

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 地域医療の維持・確保

奥出雲病院と町内の診療所との連携を深化させ、将来にわたって地域の実情に応じた一次診療体制、在宅療養体制の維持・拡充に努めます。

また、教育現場での地域医療教育、医療職場体験等の支援を継続し、将来地域貢献するという意志を持って進学する地域卒推薦制度を利用した医師及び看護師の増加を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域医療教育推進事業補助金交付件数	21件	40件	60件

(2) 奥出雲病院の体制充実

人口減少と高齢化の進展により、奥出雲病院に求められる役割が変化してきています。医師確保が継続的な課題ですが、求められる医療を持続的に提供できるよう雲南圏域の医療機関相互の連携を深め、町民が安心して生活し続けることができる医療提供体制を確保していきます。また、これまでの在宅や施設からの救急受入れ患者の対応や在宅復帰に向けた支援に加え、新たに設置した奥出雲病院介護医療院で継続的に医療処置が必要な方の生活の場を提供していきます。



町立奥出雲病院

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
年間時間外救急搬送患者受入数（将来人口推計を考慮）	1,600件	1,400件	1,300件

(3) 医療介護連携の推進

高齢者の生活を支える医療・介護サービスが切れ間無く提供されるよう、雲南圏域で取り組んでいる入退院連携を深化させるとともに、「奥出雲町医療介護ネットワーク」の活動を推進し、将来にわたり持続可能な医療介護提供体制の整備に努めます。また、UIターン奨励金制度等を活用し、提供体制維持に欠かせない職員確保に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
介護人材確保奨励金累計交付者数	15件	30件	45件

みんなが協力できること



町民・地域

- 日頃からバランスのとれた食事や運動を心掛け、健康で長生きできるように取り組む
- いざとなったときに困らないよう、ご自身や家族の人生の最終段階をどこでどのように過ごしたいかあらかじめ考え、信頼できる人に伝えておく

企業・団体

- 定期的に健康診断を実施し、従業員等の適切な健康管理をする

基本目標6 健やかで安心安全な暮らしをつくる

④消防・防災対策の推進

総合戦略と関連する施策分野	□																
	総合戦略として対応する分野																
関連するSDGsターゲット	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
ターゲット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

施策を取り巻く社会情勢

近年、地震や台風等の水害をはじめとした自然災害が日本各地で多発しており、大規模な災害に対応するためには、ハード、ソフトの両面において防災と減災対策を進める必要があります。また、災害時には、自分自身の命は自分で守る「自助」、自主防災組織など地域コミュニティで力を合わせて対応する「共助」、公的機関が救助活動や支援物資の提供などをする「公助」の考えを啓発するとともに、その全てが連携し被害を最小限にとどめる社会を作ることが重要です。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 本町では、大きな天災は近年起こっていませんが、全国的な異常気象による自然災害の発生により防災に対する意識が高まっています。小さな拠点づくり事業などを活用し、様々な防災研修等が開催され、地域の防災力が高まっています。
- ◆ 令和2年3月に町内で1044箇所の土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が指定されたことにより災害時の避難所が危険区域に存在していることが判明し、安全な避難所の確保と安全な避難行動の確認が必要です。
- ◆ 地域防災の要である消防団員は、過疎化、少子高齢化の影響で年々減少傾向にあります。地域の理解と協力を得て、充実・強化に努めるとともに、奥出雲消防署との連携強化を計画的に進めていくことが必要です。

10年後のめざす姿

住民主体により防災への取り組みが積極的に行われ、地域の防災減災が図られているまち
奥出雲消防署との連携により広域的消防体制が保たれたまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
自主防災組織数（構成自治会数）	2組織	7組織	12組織

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町地域防災計画	(毎年改訂)

取組

(1) 防災活動の推進

防災訓練の充実を図るため、学校、公民館、自治会等を単位とした研修会を開催します。また、令和2年7月に全戸配布したレッドゾーン指定を反映した土砂災害ハザードマップを活用し、防災体制を強化します。

さらに迅速で的確な防災情報を発信するため、防災行政無線の伝搬範囲の拡大を図ると共に、伝達手段の多重化・多様化を図ります。



防災訓練の様子

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
防災研修会・訓練の実施	5回	10回	15回

(2) 災害弱者支援体制

避難支援が必要な方を支援する仕組みづくりとして、避難行動要支援者に配慮した避難計画の策定、避難行動要支援者名簿を作成し、災害弱者への支援体制を強化します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
福祉避難所の指定	1箇所	10箇所	15箇所

(3) 防災組織・体制の充実

自主防災組織に対する住民の関心を高めるため、消防本部、関係団体等と協力して啓発活動の実施と組織の活動を支援し、育成強化を図ります。また、奥出雲町防災士育成事業を活用し、防災士の資格取得を支援し、地域の防災力強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
防災士登録者	23人	73人	123人

(4) 消防活動の充実

消防団員の活動の見直しと地域住民の理解促進による、担い手の確保と機能別消防団員の活用による体制強化を図ります。さらに消防施設、設備・装備の一層の強化、高度化による省力化を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
機能別消防団員数	10人	20人	30人

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 防災の意識を高め、危険な場所の確認、防災用品・食料の備蓄など「自分の命は自分で守る」ことに努める
- 企業・団体
 - 防災関連事業への積極的な参加に努める

基本目標6 健やかで安心安全な暮らしをつくる

⑤安心・安全に関する意識啓発

総合戦略と関連する施策分野	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
関連するSDGsターゲット																	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

誰もが安全で安心して暮らせる社会の実現は、全ての人々の願いです。しかしながら、近年身近なところで発生する犯罪や事故等の増加により地域の安全・安心に関する不安が高まっています。これには、地域および地域活動団体や事業者と警察等関係機関が一体となって、安全で安心して暮らせる地域社会の実現に向けた取り組みを推進する必要があります。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 近年、奥出雲町内では交通死亡事故は発生していないものの、高齢者が関係する交通事故が増加傾向にあることから高齢化率が43%を超える町としては、対策を講じる必要があります。
- ◆ 防犯灯、防犯カメラの整備が進み、町民の防犯意識が高まっていますが、依然として子ども、学生、女性を狙った「声掛け・つきまとい」などが発生しています。
〔雲南管内では、平成29年12件、平成30年10件、令和元年4件、令和2年11件の認知件数〕
- ◆ 刑法犯の認知件数は、奥出雲町内で平成29年15件、平成30年19件、令和元年15件、令和2年23件となっており、新たな手口による詐欺被害が懸念されるため、継続的な広報啓発活動が必要です。
- ◆ 少子高齢化の進展により、高齢者の独り暮らしや高齢者世帯が増加し、依然として高齢者の特殊詐欺被害が後を絶たない状況にあります。

10年後のめざす姿

地域全体が一体となって、犯罪や交通事故等の未然防止に向けた一体的な取り組みができるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
刑法犯認知件数（年間）	23件	15件	12件
人身交通事故件数（年間）	8件	6件	4件

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町犯罪のない安全で安心なまちづくり推進計画	平成30年度～令和4年度
第10次奥出雲町交通安全計画	平成28年度～令和2年度

取組

(1) 町をあげての防犯体制の強化

「自分たちの地域は自分たちで守る」という防犯意識向上のための啓発を進めるとともに、地域における自主的な防犯活動の活性化やそれぞれの活動の連携を深めていくための取り組みを推進します。

また、防犯上配慮を要する者については、地域住民が連携して地域全体で子どもや高齢者等を見守る活動、被害防止等の取り組みを推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
防犯研修会の開催数・参加者数	0(0人)	1(20人)	2(40人)

(2) 交通安全意識の向上

地域活動団体や事業者と情報共有、連携を図り、子どもや高齢者の事故の未然防止を推進するため、広報啓発活動を推進します。また、事故多発地点や危険箇所について、交通安全施設の整備を行うとともに、関係団体と連携を図り、交通安全意識と交通マナーの向上のための啓発活動を進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
交通安全に関する街頭啓発活動の回数	2回	2回	2回

(3) 消費者自立支援の推進

被害に遭ったと自覚しても、「誰にも相談しない（自分が悪かった）」、「相談窓口があることを知らない」などの特徴から、これまでは相談を受けてから被害の防止・救済が中心でした。

このようなことから被害リスクの高い高齢者等に未然にアプローチする体制づくりを進め、構成機関において通常の活動の中でさりげなく見守り、異変があれば、情報交換・共有、協議が行える「地域見守りネットワーク」を構築します。

また、消費者被害の未然防止や拡大防止のため、情報提供や普及啓発を進めます。



「消費者トラブルの予防と対策」

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
消費者被害防止のための研修会開催	0回	1回	2回

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - ご近所さんとコミュニケーションを図る
 - 助け合い、譲り合いの心を常に持つ
- 企業・団体
 - 工作中、変わったこと、気づいたことがあれば情報共有をする

基本目標7 産業と暮らしを支えるインフラをつくる

①公共施設の活用・適正管理

総合戦略と関連する施策分野	□	総合戦略として対応する分野															
		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる															
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

少子高齢化の進行による人口減少やライフスタイルの変化による住民ニーズの多様化に伴い、公共施設の規模の適正化や用途の転換等が課題になっています。また、過去に整備された施設がこれから大量に更新時期を迎える一方で、地方公共団体の財政は依然として厳しい状況にあります。このため、公共施設の更新・統廃合・長寿命化を計画的に行い、財政負担の軽減・平準化を進めることが求められています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 奥出雲町の人口1人当たりの公共施設延床面積は13.01㎡で、全国平均の3.60㎡、同規模自治体（人口1～3万人）の平均6.04㎡と比べ大きいといえます。
- ◆ 築30年を超える施設は、一般的に大規模改修が必要とされますが、町の公共施設で築30年を超える施設は建物面積全体の2割で、特に学校教育系施設に集中しています。これが10年後には全体の5割を超え、20年後には8割を超える見込みであり、急速に老朽化が進みます。
- ◆ 新耐震基準となった昭和56年以降に建設された町の公共施設は、全体の8割ですが、残りの2割は、旧耐震基準による施設であり、改築等による耐震化対策が課題になっています。
- ◆ 学校再編を見据えながら、安全で快適な学習環境を確保するため、計画的な学校施設・設備の整備が必要になっています。また、再編後の施設の有効活用も考慮する必要があります。

10年後のめざす姿

住民ニーズに即した施設が確保されている。施設規模の最適化や計画的な維持管理、長寿命化により持続可能な財政運営が行われているまち。

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
公共施設総量の削減	261施設	251施設	241施設
個別施設毎の長寿命化計画の策定数	1件	5件	10件

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和3年度

取組

(1) 公共施設の有効活用

公共施設におけるサービスの必要性を再検討し、機能や配置が適切でなくなった施設や利用状況・効率の低い施設は、機能の集約化・複合化や他用途への転用など使用形態・利用形態の見直しを行い、施設の最適配置を進めます。

学校施設は地域住民にとって身近な公共施設であるため、再編後の施設跡地の活用方法については、地域の拠点施設としての利用を、基本方針としつつも、社会教育施設や社会体育施設等の公共施設のほか、体験交流施設等の地域コミュニティ施設、防災拠点施設、民間事業者と連携した創業支援オフィスなど様々な用途を想定しながら有効な活用方法を地域住民とともに検討していきます。

また、町の公共施設等総合管理計画を基にした長期的・計画的な施設の維持管理、長寿命化を行い、財政負担の軽減、平準化を進めます。



町立横田小学校プール

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
利用方法を見直した施設数	0施設	10施設	20施設

(2) 公共施設の耐震化・防災拠点の整備

旧耐震基準による施設については、機能の集約や有効利用を検討した上で、計画的な耐震化を進めます。防災拠点となる庁舎、避難所となる施設は、地域防災計画を踏まえ、耐震性に加え、発電設備や給水設備などの災害対策機能の強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
耐震化率（新耐震基準）	80%	90%	100%

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 遊休施設等を利活用する
 - 遊休施設等の有効活用のための提案・提言をする
- 企業・団体
 - 行政と連携した遊休施設等の運用を検討する

基本目標7 産業と暮らしを支えるインフラをつくる

②生活基盤・交通基盤の整備

総合戦略と関連する施策分野	□ 総合戦略として対応する分野																
	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

◆急速に進行する道路ストック等の老朽化などの社会的背景を踏まえ、安心して安全な活力ある地域づくりの実現のため関係機関と連携を取りながら道路整備の一層の効果的・効率的な実施に向け取り組んでいくことが重要です。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆上水道の現状は、令和元年度末で給水人口：12,156人、給水率：98.6%となっています。今後は、施設の改良をはじめ、水質の向上や老朽化した管路の更新など計画的な給水体制の確立が必要です。
- ◆下水道の現状は、令和元年度末で処理人口：11,498人、普及率：93.3%となっています。今後は、施設の老朽化に対応しつつ、施設更新費の平準化等を図り、より健全な財政運営が必要となります。
- ◆本町の道路網は、国道、主要地方道を幹線とし、これに接続する生活道路としての町道で形成されています。歩行者の安全対策や冬期間の交通確保のため、計画的な整備が必要です。
- ◆町道の維持管理については、道路ストック等の老朽化への対応が求められています。また、積雪時の対応など様々な住民のニーズに応えていく必要があります。
- ◆住民生活に欠かせない移動手段として公共交通機関の維持存続は重要な課題であり、引き続きJR木次線の利用促進並びにバス路線の適正な維持が求められています。

10年後のめざす姿

安全で快適な暮らしを支える上下水道・道路が適切に整備・維持管理されるとともに、地域特性に応じた公共交通などの移動手段が確保されたまち。

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水洗化率	86.6%	93.0%	98.9%
町道の改良率	61.8%	61.9%	62.1%

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町国土強靱化計画	令和2年度～令和7年度

取組

(1) 道路の新設・改良、維持管理

町道の新設改良については、災害時などの迂回路や防災拠点の状況等、道路の重要度を把握し、広域的視点で優先順位の高いところから、重点的・計画的に整備を進めます。関係機関へ早期整備に向けての要望活動を継続的に行います。道路ストックの老朽化対策等、斜面などの危険箇所対策を優先度の高い箇所から実施します。また、豪雪等の異常気象時に備え、除雪車両の充実や除雪体制の確保、強化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
道路橋メンテナンス率	34.1%	68.3%	100%

(2) 上水道の改良、維持管理

安心・安全な水道水の安定供給のため、水源の確保や改良について、計画的に老朽施設の更新・改良及び老朽管の更新に努め、災害に強い水道施設を目指します。また、恒常的な点検を行い供給水の質的水準の向上や水源の水質保全対策を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
上水道の老朽管路の割合	3.7%	14.9%	12.5%

(3) 下水道の改良、維持管理

集合処理区域外は合併処理浄化槽により整備を進め、公共用水域の水質保全を図ります。また、継続可能な下水道事業のため、老朽化施設の計画的改修による経費の平準化、適正な料金体系の見直し、横田地区集合処理区域の統廃合により施設管理費の軽減、公営企業会計への移行等効率的な運営に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水洗化率に関する普及啓発活動回数	1回	1回	1回

(4) 安定した交通手段の維持

公共交通の充実、地域の活力を支えていく上で欠かせないものです。

今後の学校再編計画や地域の道路改良の進捗状況を見据えながら、本町の地域公共交通の指針となる「地域公共交通計画（マスタープラン）」を策定します。また、学生や高齢者など、地域の多くの住民に利用されているJR木次線は、生活利用に加え、沿線のシンボルであるトロッコ列車「奥出雲おろち号」が運行されており、JR西日本や周辺自治体とともに、更なる利用促進と観光振興に向けた取り組みを進めます。このほか、路線バスについては、地元事業者である奥出雲交通㈱と連携し、計画的な車両更新と施設管理により、路線の維持、安定に向けた支援を図ります。



JR木次線

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
公共交通事業者の維持	5社	5社	5社

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 町道沿線の草刈り・陰切りなどの協働作業をする
 - 上下水道を適正に使用する。
 - 公共交通を利用する
- 企業・団体
 - 除雪や道路維持の連携体制を整える

基本目標7 産業と暮らしを支えるインフラをつくる

③住宅施策

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

施策を取り巻く社会情勢

住宅は、子どもを育て、家族が憩い、老後を過ごすなど、幸せを育み、活力を養う空間であり、豊かな住生活は、社会に安定をもたらします。高齢夫婦世帯は、子育て期に建てた比較的広い家に住み、維持管理や交通の便に苦慮する世帯もある一方で、子育て期の若いファミリー世帯は比較的コンパクトな家に住むなど、時代の変化に伴い住宅ニーズも変化してきています。また、税制上の優遇や低金利などが追い風となり、子育て世代（30～45歳）の年齢層で持ち家率が増加傾向にあります。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 国勢調査における本町の持ち家率を見ると、島根県平均は72.4%（H17）69.5%（H27）と減少傾向にあるものの、本町では83.2%（H17）84.2%（H27）と増加傾向となっています。また、9.4%にあたる419世帯は公営・民営賃貸住宅に居住しています。
- ◆ 公営住宅への入居希望はあるものの施設の老朽化と入居要件により、結婚等を機に住宅への入居を希望されてもニーズに合わない、入居できない等の問題が発生しています。
- ◆ 公社単身住宅においては、転勤等による入居希望への対応に加えて、町外からの学生受入れのための住宅確保も継続していく必要があります。また、町全体として、公営住宅と民営住宅の立地に偏りがあることから住民ニーズに応じた（民営）住宅の整備を進める必要もあります。
- ◆ 核家族化の進行により、住宅のマッチングが成立しないことを理由に転出する世帯が増加していることから、特に子育て世代の定住を促進する住環境整備への支援が求められています。
- ◆ 空き家バンク制度においては、利用者は賃貸物件を希望される傾向にあり、利活用可能な賃貸物件の掘り起しが課題となっています。
- ◆ 危険空き家が増加しつつあり、除却経費もかさむことから、適正な管理と除却が進んでいない状況にあり、所有者への意識啓発が必要となっています。

10年後のめざす姿

行政と民間が連携し、少子高齢化やライフスタイルの変化、多様化する住宅ニーズに適応した住宅や宅地の供給ができるまち

まちづくりの目標

指標（KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
居住に供する新築・増改築物件数	21件	20件	20件

関連計画

関連計画	計画期間
奥出雲町公営住宅等長寿命化計画	平成31年度～令和10年度
奥出雲町空き家等対策計画	平成29年度～令和3年度

取組

(1) 魅力ある住まいの確保

子育て世代の定住を促進するために、ライフステージに応じた新築や増改築といった住宅環境整備を支援し、「住み続ける町」として選択して頂ける住宅環境整備支援に取り組みます。

また、本町が抱える問題解決、多様化するニーズに対応した民間賃貸住宅整備を促進するため、行政と民間の連携に必要な支援策に取り組みます。



住宅環境整備支援により建設された住宅

KPI（Key Performance Indicator/重要業績評価指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
住宅環境整備支援件数（累計）	48件	153件	258件

(2) 空き家の利活用と老朽危険空き家の除去

人口減少とともに、空き家の増加が見込まれます。優良な空き家物件については、空き家バンク制度に登録頂き、入居希望者に対し賃貸借及び売買を斡旋します。また、空き家の水回りなどの条件整備について、ニーズに対応した支援を行います。一方で、不良住宅、危険空き家も増加する見込みであり、特に危険を伴う住宅については、所有者に対し、適正な維持管理と除却を促し、周辺環境の整備に努めるとともに、整地された宅地について、空き家バンク制度により希望者に斡旋します。

KPI（Key Performance Indicator/重要業績評価指標）	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
空き家バンク契約成立件数（単年）	10件	10件	10件
老朽空き家除却件数（延べ件数）	2件	12件	22件

〔住宅所有形態別一般世帯の状況〕

	持ち家	公営・公団 公社住宅	民営住宅	給与住宅	間借り	住宅以外	合計
世帯数	(4,048) 3,750	(478) 419	(159) 143	(96) 66	(27) 21	(59) 53	(4,867) 4,452
率	(83.2) 84.2	(9.8) 9.4	(3.2) 3.2	(2.0) 1.5	(0.6) 0.5	(1.2) 1.2	(100.0) 100.0

〔上段（ ）はH17年 下段はH27年国勢調査〕

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 適切に持ち家を管理する
 - 不良・危険家屋を発見したら情報を提供する
- 企業・団体
 - 不良・危険家屋を発見したら情報を提供する

基本目標7 産業と暮らしを支えるインフラをつくる

④地域情報化の推進

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
関連するSDGsターゲット																		<input checked="" type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

情報通信技術は日々急速に進化しており、行政サービスについても Society 5.0 の実現に向けた様々な取り組みが必要とされています。次世代の情報技術は、地域の特性に応じた形で活用できるものであり、地方創生を促進するためにも、高度かつ持続可能な情報通信基盤の整備が求められています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆ 奥出雲町では、合併後平成 18 年から平成 19 年にかけて光ケーブルを全域に整備したが、整備後 10 年以上経過し、ケーブルテレビ施設の老朽化が進む中、特にインターネット通信を安定して供給できるよう改善が必要です。
- ◆ インターネットでは大容量通信を必要とするコンテンツが増えてきており、インターネットを不自由なく利用できる環境の構築が求められています。
- ◆ Wi-Fi やスマートフォン・タブレットが普及し、誰もが気軽にインターネットを利用できるようになったことに伴い、サイバー犯罪や情報漏洩等のセキュリティ事故も同様に増加しています。行政サービスを行う上でも、徹底したセキュリティ対策が必要です。
また、高齢者など誰もが安心してパソコンやスマートフォン、タブレットを利用できるように十分なサポートをしていくことも求められています。

10年後のめざす姿

町民ニーズや地域の特性にあった、次世代の様々なデジタル技術を活用できるような環境のあるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020 年度	目標値	
		2025 年度	2030 年度
町インターネット加入率	44%	46%	48%

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 情報通信基盤の整備

情報通信基盤整備に関して町民へ情報提供することで理解と協力を得ながら、ケーブルテレビ施設の老朽化対策及び今後急速な進展が期待される Society5.0 の実現に向けた整備を進めます。

また、生活インフラとして快適にインターネットを利用できるよう改善を行い、持続可能なインターネット環境の整備を行います。

さらに、携帯電話不感知解消については、携帯電話 3G サービスが終了した後の対策も含め、官民連携した取り組みを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020 年度	目標値	
		2025 年度	2030 年度
ケーブルテレビ施設の新サービス追加数	0 サービス	3 サービス	5 サービス

(2) デジタル化社会に対する人材育成等の推進

急激なデジタル化の進展に伴い、サイバー攻撃や情報漏洩への対策が急務です。職員へ専門知識習得の機会を設け情報セキュリティ対策を徹底するとともに、地域の住民や企業にも有用な情報を提供できるよう努めます。

また、オンライン会議などの新型コロナウイルス感染症拡大防止に有効な情報サービスが広く利用されるようになり、誰もが一定の情報リテラシーを求められるようになりました。地域住民にデジタル化に関する情報リテラシーを身に着ける機会を多く提供するため、公共施設等の通信環境を整備し、各所で研修会等が開催できるよう推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020 年度	目標値	
		2025 年度	2030 年度
デジタル化に関する研修会等の開催数	年 0 回	年 9 回	年 18 回

(3) 情報サービスの充実

今後、更なる需要が見込まれるオンライン会議等の利用やサテライトオフィスの活用に対応するため、大容量通信サービスを利用できる場所の提供、インターネットプランの見直しを検討します。

また、時代の潮流を注視しながら、第 5 世代移动通信システム (5G) など新技術の活用について、官民連携した取り組みを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020 年度	目標値	
		2025 年度	2030 年度
大容量通信可能なスポット数	0 ヶ所	2 ヶ所	9 ヶ所

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 新しい情報通信技術を利用した、遠隔交流などを活性化する
 - インターネットトラブルを防止するため、正しい利用方法を身につける
- 企業・団体
 - Society5.0 の実現に向けた取り組みを推進する
 - 情報リテラシー促進のための研修会等を開催する

基本目標8 持続可能なまちをつくる

①効率的・効果的な行政サービスの推進

総合戦略と関連する施策分野	☑	総合戦略として対応する分野																
		<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる																
関連するSDGsターゲット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

施策を取り巻く社会情勢

全国的に行政職員が減少している一方、基礎自治体である市町村に求められる役割は拡大しており、行政課題に適切に対応し、限られた職員で効率的に機能する組織づくりが求められています。

また、社会情勢の変化、住民意識の多様化にともない行政サービスに対するニーズは高度化しています。これらの要請に応えるため、窓口業務の見直しや民間委託の推進、行政デジタル化（ICT/IoT、マイナンバーカードを利用したオンライン手続き、AI・RPA、クラウド共同利用、オープンデータ、オンライン会議など）による業務の効率化と利便性の向上が求められています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆「まちの将来像」を実現するためにも、組織や人材のマネジメントを強化するとともに、「選択と集中」に基づく中長期的な戦略の推進、「社会経済状況の急速な変化への対応」が求められています。
- ◆行政サービスを安定的に提供し、地域課題を克服するための取組を進めていくためには、的確な住民ニーズの把握、民間組織との連携、持続可能な財政基盤の構築、安定的な財政運営の確保が不可欠となっています。
- ◆町民が情報収集やコミュニケーションに用いるツールは刻々と変化しており、情報格差（デジタルデバイド）の解消に向け、オンライン手続きなど町民が利便性を感じることができるサービスを提供していく必要があります。

10年後のめざす姿

窓口業務の効率化やAI等の先端テクノロジーを含むICT/IoTなどを積極的に活用し、町民の利便性向上につなげ、多様化・高度化する住民ニーズに応えるまち。

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町の行政に関心がある町民の割合（町民意識調査）	58.8%	65.0%	70.0%

関連計画

関連計画	計画期間
定員管理計画	令和2年度～令和6年度

取組

(1) 効果的な行財政運営

積極的な財源確保、健全財政の維持を図るため、過疎債等の財源の有効活用、町税の公平な課税と高い徴収率の確保、町有遊休施設の売却、ふるさと・企業版ふるさと納税等の推進など自主財源の確保に努めます。さらに、事業の見直し・廃止などによる経費節減や公共施設等の計画的な維持・管理などを通じて、財政負担の軽減・平準化に取り組むとともに保有資産の有効活用・適正管理などを通じた、経費の圧縮と確実な財源の確保に取り組めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
経常収支比率（人件費等経常経費に占める一般財源の割合）※安定比率維持	85.5%	85.5%	85.5%

(2) 行政サービスの向上と効率化

行政デジタル化を推進し、ICT/IoTなどの導入による行政サービスの高度化と利便性向上、業務の効率化を図ります。更に多様化・高度化する住民ニーズに対応できる人事管理と組織の構築に努めつつ、研修を通じた専門知識を持つ職員の能力開発や人事評価の活用により、職員の資質向上を図ります。また、地域の現状や課題の把握・分析を進め、各種行政計画の策定や施策の展開につなげ、事務事業の精査・見直しを図ります。各種申請や手続きのオンライン化、押印廃止を検討するとともに、迅速化・正確化の向上とコスト削減、町民目線に立った窓口のワンストップ化などの取組を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
行政デジタル化を実施した業務数	2業務	5業務	10業務

(3) 民間活力の導入

民間の専門的な知識・ノウハウを活用し、行政業務のアウトソーシングを推進します。更に地域特性を考慮した、共通課題を持つ近隣自治体等との連携した事務処理等の広域化を検討するとともに、産業や観光など、これまでの広域連携の枠組みを活かした地域資源の相互活用に取り組めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
民間企業・団体へのアウトソーシング数	0件	3件	6件

(4) 住民と協働のまちづくり

広聴機会の充実に努め、住民の意見を町政に反映できる環境整備を図ります。まちづくり活動のネットワークづくり、地域リーダーなどの人材育成・強化を図り、住民参画事業の充実と人的ネットワークづくりを進めます。更に、集落支援員などの人材配置、まちづくりを担うNPO法人等の設立を促し、活動を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
住民との意見交換の場	年1回	年1回	年1回

(5) 行政の透明性を図る

まちづくりや政策検討過程における情報提供の充実、広聴機会の充実に努め、多様な広報媒体を活用し、的確で分かりやすい情報提供を行い、行政の透明性、信頼性を高めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ホームページ記事数	年350記事	年380記事	年410記事
各種審議会委員の公募数	0件	3件	6件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 自助・共助の精神を持ちながら、役場や関係団体と連携する
 - 行政情報を共有し、積極的に町政に参加する
- 企業・団体
 - 行政情報（オープンデータ等）の積極的な活用をする

基本目標8 持続可能なまちをつくる

②官民協働による戦略的シティプロモーション

総合戦略と関連する施策分野	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	<input type="checkbox"/> 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする <input checked="" type="checkbox"/> 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる <input type="checkbox"/> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <input checked="" type="checkbox"/> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる
																		総合戦略として対応する分野
関連するSDGsターゲット																		<input checked="" type="checkbox"/>

施策を取り巻く社会情勢

人口減少が叫ばれて以来、日本各地で様々な人口減少対策に取り組まれており、地域ブランドの構築や定住対策における地域間競争が苛烈化しています。その中でも地域イメージを向上させ、「選ばれる」まちとなるための、シティプロモーションの取組が重要になっています。

奥出雲町の状況（現状と課題）

- ◆本町には地域資源や自然環境など様々な魅力があることから、これらを総合的に分析しプロモーションを図ることで地域活性化につなげて行く必要があります。
シティプロモーションを通じて、町内外に住む人の本町に対するブランドイメージの構築を図り、「奥出雲町のファン」を増やすことにより、交流人口、関係人口の創出、移住定住のきっかけづくりを図る必要があります。
- ◆シティプロモーションの対象には、実際に住んでいる地域住民のほか、地元出身者などの地域コミュニティとつながりがある人、地域イベントや行事に参加する人、ふるさと納税などを通じて町を応援してくれている人、都市に暮らしながら奥出雲での暮らしを楽しみに来る人、奥出雲の地域資源を活用して新たな取組を始めようとする人など、様々な関わり方の方々があります。それらの方々のニーズや市場を的確に分析し、ターゲットの特性に合わせた効果的なプロモーションを実施する必要があります。

10年後のめざす姿

奥出雲流のブランドイメージを確立し、奥出雲町の魅力や強みが全国に認知されることにより、人々に選ばれ、応援されるまち

まちづくりの目標

指標 (KGI・Key Goal Indicator /重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
社会動態の減少幅の抑制 (人口ビジョン取組目標) (再掲)	0	60人	60人
UI ターン者数 (二人世帯以上の転入者数) (人口ビジョン取組目標) (再掲)	69人	98人	98人
入込観光客数 (再掲)	873,482人	880,000人	900,000人

関連計画

関連計画	計画期間
—	—

取組

(1) 奥出雲町のブランドイメージの構築

シティプロモーションとして発信すべき奥出雲町の魅力・強みを把握し、効果的な発信ができるようターゲットの類型別の整理分析を行います。また、これらの魅力・強みを行政職員だけでなく地域住民・事業者・団体からもブランドイメージを発信できるよう共通認識を育てます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町のプロモーション研修会開催回数	0回	年1回	年1回

(2) 官民協働の戦略的シティプロモーションの実施

町の魅力発信に効果的なSNS (Twitter、Facebook、Instagram等) を活用し、「奥出雲町を知らない人に知ってもらおう」、「行政情報以外の奥出雲町の情報を知ってもらおう」など町外の方にも町をPRします。

また、奥出雲町で開催される様々なイベント、行事等を一元的に発信し、町内外へ発信する仕組みづくりを行い、さらにイベントの様子などを載せ、参加者の拡大を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
SNS フォロワー数	3,500件	5,000件	10,000件

(3) 奥出雲町を応援する人々との関係構築

インフルエンサー (世間に与える影響力が大きい行動を行う人) のほか、報発信力を持つ町民 (ブログ、ホームページなどの運営者) や事業者も含めた情報発信のキーパーソンと「町民サポーター」として関係を構築し、町内外の関係者との協働による情報発信に取り組みます。

また、町を広報することに興味のある方を募集し、SNS などで発信や動画作成に協力していただき、町民目線での情報発信ができるシステムの構築や広報大使を募集し、SNS 等での情報発信をすることができるシステムの構築を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町民サポーター制度登録者数	0件	25件	50件

みんなが協力できること



- 町民・地域
 - 奥出雲町の良さを知り、奥出雲町のファンになる
 - 奥出雲町の魅力を全国に発信する
- 企業・団体
 - 奥出雲町の魅力や・強みを積極的に情報発信する